

# EPMon セットアップ手順書

## \*\*\*\*\* 目次 \*\*\*\*\*

<u>1. 概要</u>	-----	2ページ
<u>2. 仮想COMドライバのインストール</u>		
2-1 Windows10の場合		
(1) お手持ちのパソコンがネットワークにつながっている場合	-----	3ページ
(2) お手持ちのパソコンがネットワークにつながっていない場合	-----	5ページ
2-2 Windows8の場合		
(1) お手持ちのパソコンがネットワークにつながっている場合	-----	12ページ
(2) お手持ちのパソコンがネットワークにつながっていない場合	-----	14ページ
2-3 Windows7の場合		
(1) お手持ちのパソコンがネットワークにつながっている場合	-----	21ページ
(2) お手持ちのパソコンがネットワークにつながっていない場合	-----	24ページ
2-4 WindowsXPの場合	-----	31ページ
<u>3. .NetFramework4.0 のインストール</u>	-----	38ページ
<u>4. アプリケーションプログラムのインストール</u>	-----	42ページ
<u>5. その他</u>		
(1) 仮想COMドライバのアンインストール	-----	43ページ
(2) アプリケーションプログラムのアンインストール	-----	46ページ
(3) インストールされている “.NetFramework” の調べ方	-----	47ページ
<u>6. 改版履歴</u>	-----	49ページ

## 1. 概要

本ソフトは、低温恒温槽“NCB-1210\* / NCB-2510\* / NCB-2610\* / NCB-2410”シリーズ用の温度モニタ、ログデータ収集、ステップ運転等をパソコンと装置を接続して行うことができ、Windows XP ~ Windows10 搭載のパソコンでお使い頂けます。

セットアップは、

- ①仮想COMドライバのインストール、
- ②NETFramework4.0のインストール、
- ③アプリケーションプログラムのインストール

の3ステップになります。

仮想COMドライバについては、お使いのパソコンのOSによって多少違う部分もあるため

Windows10/Windows8/Windows7/WindowsXP についての手順を掲載します。Windows7 ~ 10についてはお手持ちのパソコンをネットワークに接続しておく、Windowsが自動で最適なドライバをインストールしてくれるので便利です。

また、.NETFramework のインストールにおいては、お使いのパソコンによっては既にプレインストールされている場合もあります。既にインストールされてことが明らかな場合は、このステップは飛ばして戴いても構いませんが、インストールの途中で既にインストールされている場合は、メッセージが表示されますので不明な方は、とりあえずインストールを実行してください。

## 2. 仮想COMドライバのインストール

### 2-1 Windows10の場合

#### (1) お手持ちのパソコンがネットワークにつながっている場合

- ① 接続ケーブルをパソコンのUSBポートに接続してください。  
接続直後に、タスクバーに下図の赤枠で示すアイコンが表示されます。



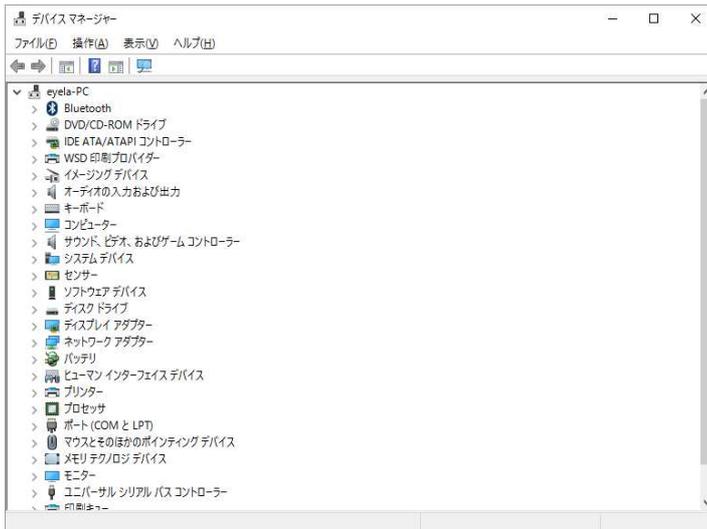
- ② このアイコンをクリックすると下図のような画面が表示されます。(Windowsのドライバ検索機能で自動的に適切なドライバが選択されインストールされている様子です)



- ③ インストールが終わると、上記画面は自動的に消えます。所要時間はネットワークの接続環境にもよりますが、数秒～数分です。
- ④ インストールが無事終了し、ケーブルが認識されているかを確認するため、デバイスマネージャーを起動します。
- ⑤ パソコン画面右下のスタートボタンを右クリックします。メニューの中からデバイスマネージャーを選択します。



⑥ デバイスマネージャーの画面が起動します。



⑦ 画面下の方の「ポート(COMとLPT)」を展開させます。

「USB Serial Port (COM\*)」が表示されていれば、仮想COMドライバのインストールは正常に行われています。  
下図では、COM8となっていますが、COMの後の番号は、お使いのパソコンによって異なります。  
この「COM\*」は本ソフトの接続確認の際に使用しますので、どこかにメモを取っておきましょう。



⑧ 下図のように、！マークが表示されている場合は、ネットワークにつながっていないか、何らかの理由で仮想COMのインストールに失敗していますので、以降説明するダウンロードファイルを使ったインストールへ進みます。

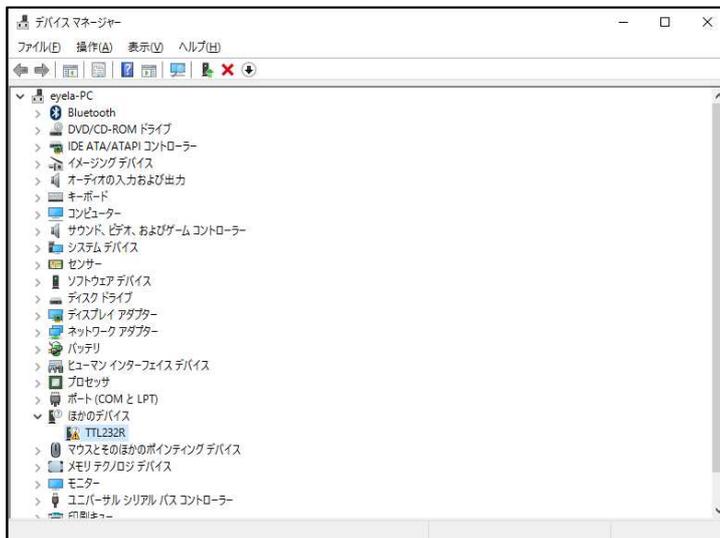


(2) お手持ちのパソコンがネットワークにつながっていない場合

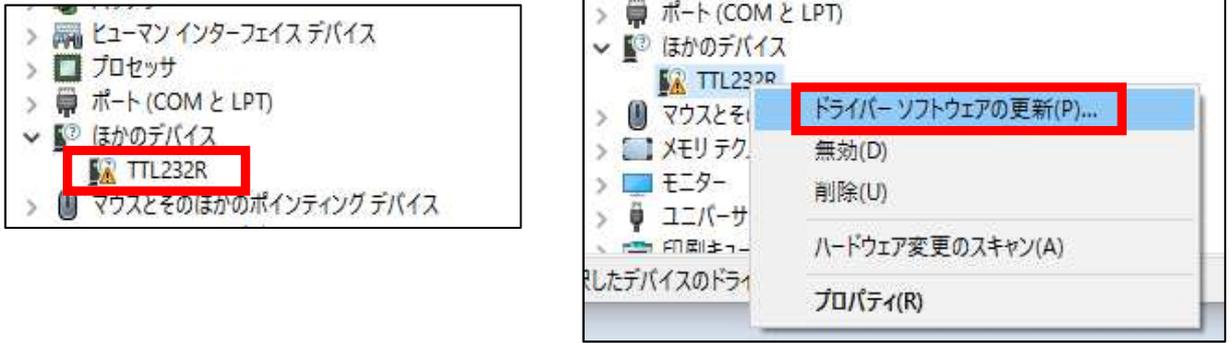
- ① 解凍した「セットアップディスク」ホルダーの場所を確認してください。
- ② 接続ケーブルをパソコンのUSBポートに接続してください。
- ③ パソコン画面右下のスタートボタンを右クリックします。メニューの中からデバイスマネージャーを選択します。



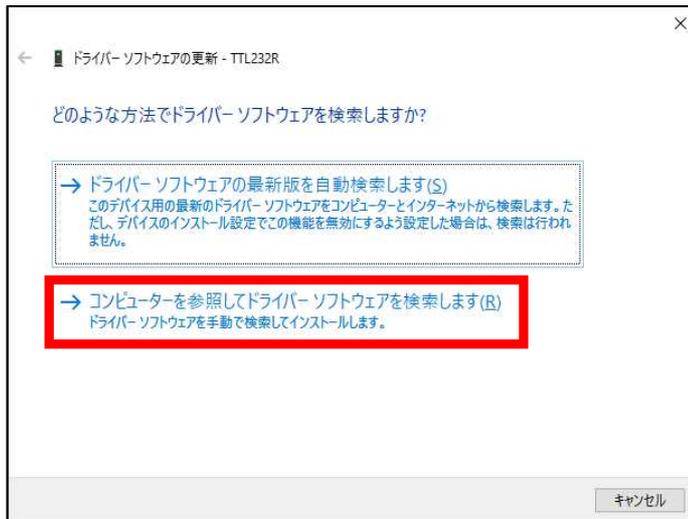
④ デバイスマネージャーの画面が起動します。



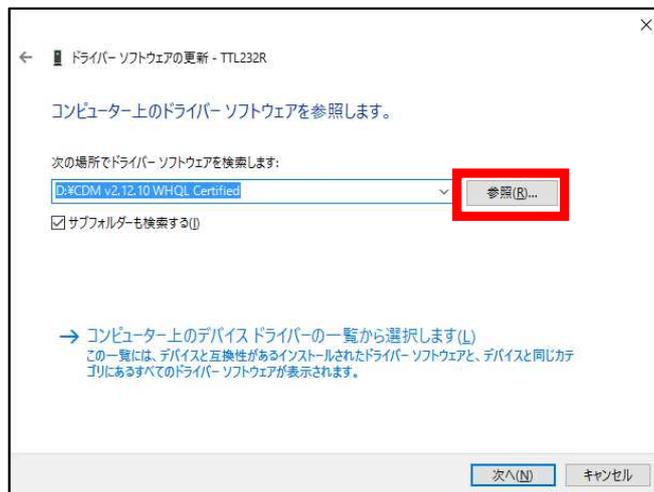
- ⑤ 画面下の方に不明なデバイスとして「TTL232R」が見えます。これを右クリックしてドライバソフトウェアの更新を選択します。



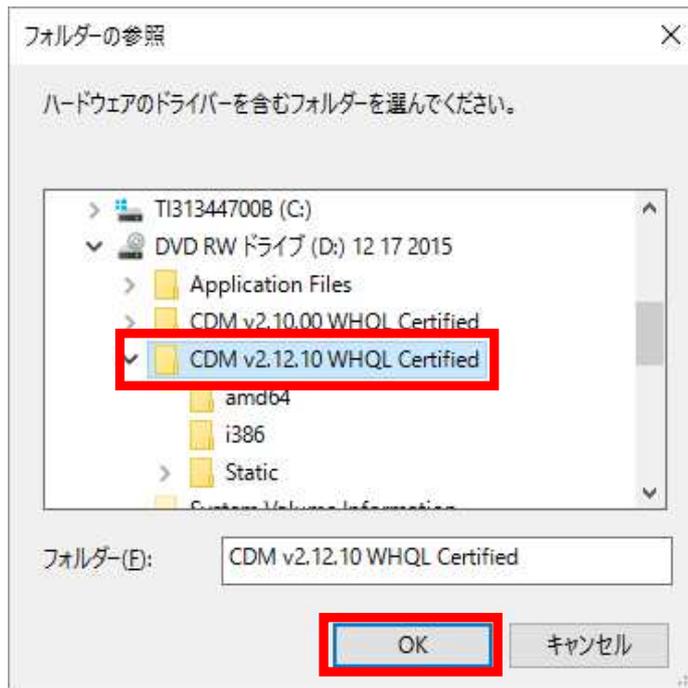
- ⑥ 以下画面が表示されますので、「コンピュータを参照してドライバソフトウェアを検索します」を選択してください。



- ⑦ 参照ボタンをクリックします。



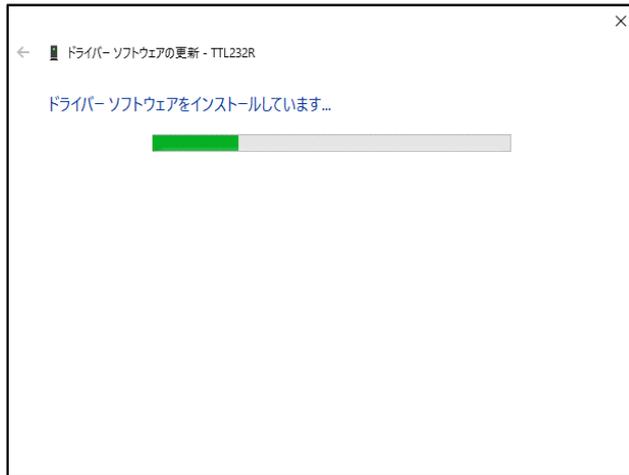
- ⑧ ①で確認した「セットアップディスク」ホルダの「CDM-- v2.12.10 WHQL Certified」を選択してOKボタンをクリックします。



- ⑨ ⑧で選択したフォルダになっていることを確認し、次へをクリックします。  
(サブフォルダも検索するにチェックが入っていない場合は、チェックを入れてください)



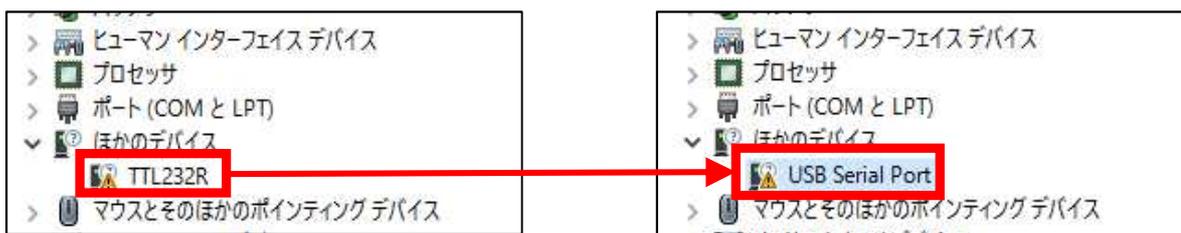
- ⑩ ドライバーのインストールが始まります。お使いのパソコンにもよりますが、インストールは数秒程度で完了します。



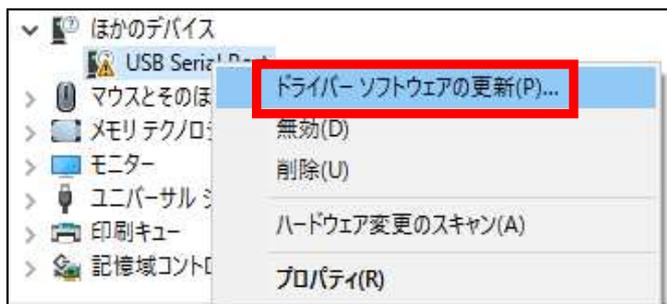
- ⑪ 以下の画面が表示されますので、閉じるをクリックしてください。仮想COMドライバのインストールは2回必要です。下図のように「USB Serial Converter」と表示される場合は、まだ途中ですので注意してください。



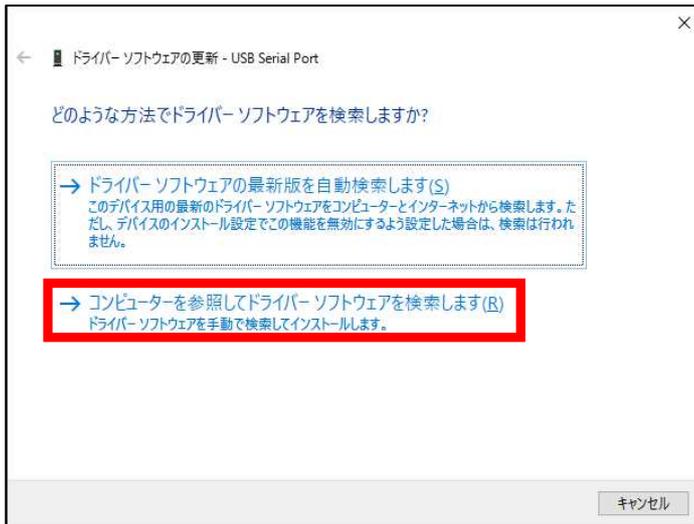
- ⑫ デバイスマネージャの画面に戻ります。表示名が「TTL232R」 --> 「USB Serial Port」に変わっていれば⑪までの作業は無事終了しています。変わっていない場合は、①からの作業を再度確認してください。



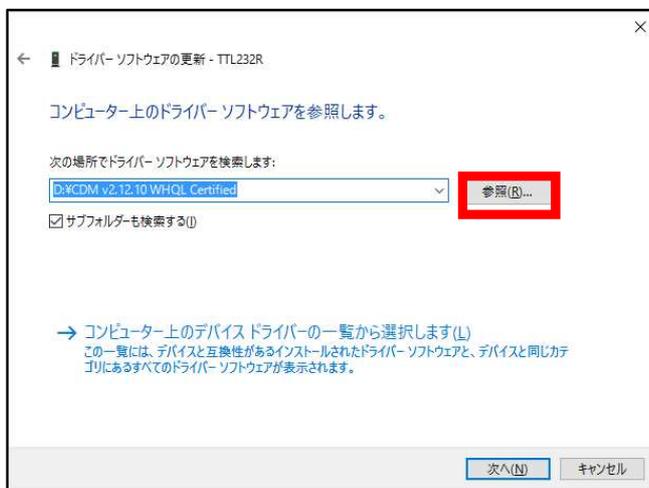
- ⑬ 不明なデバイスとして見える「USB Serial Port」を右クリックしてドライバソフトウェアの更新を選択します。



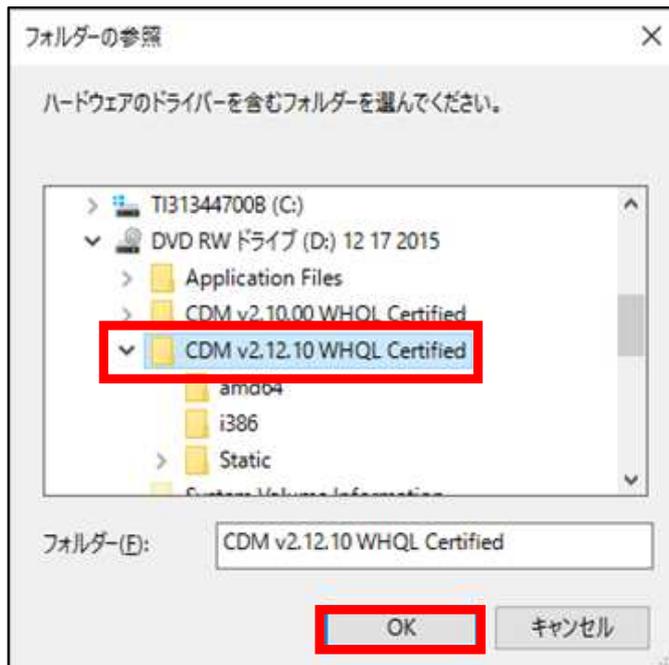
- ⑭ 以下画面が表示されますので、「コンピュータを参照してドライバソフトウェアを検索します」を選択してください。



- ⑮ 参照ボタンをクリックします。



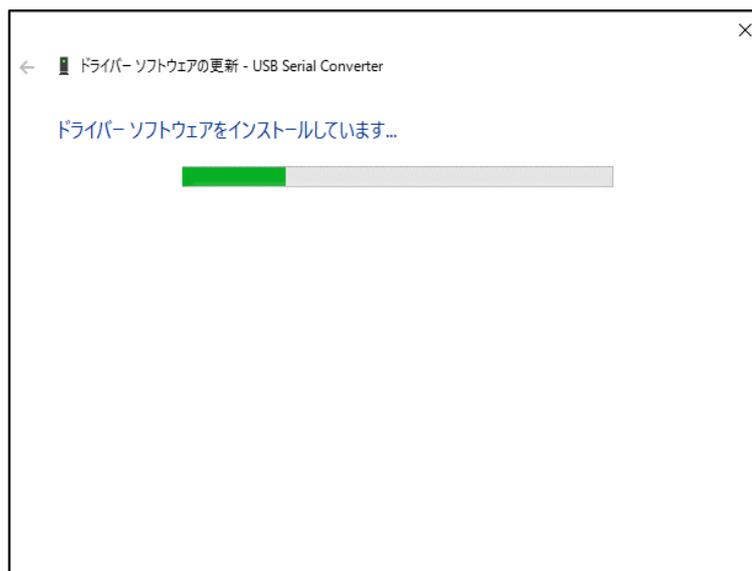
- ⑯ ①で確認した「セットアップディスク」ホルダーの「CDM-- v2.12.10 WHQL Certified」を選択してOKボタンをクリックします。



- ⑰ ⑯で選択したフォルダになっていることを確認し、次へをクリックします。  
(サブフォルダも検索するにチェックが入っていない場合は、チェックを入れてください)



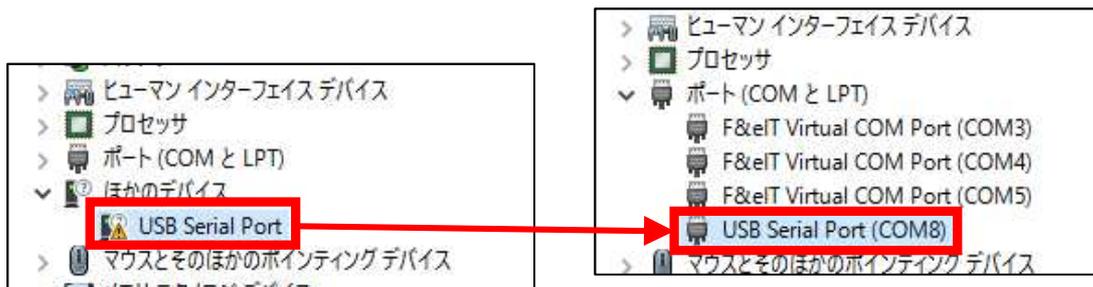
- ⑱ ドライバーのインストールが始まります。お使いのパソコンにもよりますが、インストールは数秒程度で完了します。



- ⑱ 以下の画面が表示されますので、閉じるをクリックしてください。



- ⑳ デバイスマネージャの画面に戻ります。「ポート(COMとLPT)」を展開します。先ほどまでほかのデバイスに表示されていた「USB Serial Port」が「USB Serial Port(COM\*)」に変わっていれば、仮想COMドライバのインストールは無事終了です。  
下図では、COM8となっていますが、COMの後の番号は、お使いのパソコンによって異なります。この「COM\*」は本ソフトの接続確認の際に使用しますので、どこかにメモを取っておきましょう。



## 2-2 Windows8の場合

### (1) お手持ちのパソコンがネットワークにつながっている場合

- ① 接続ケーブルをパソコンのUSBポートに接続してください。  
接続直後に、タスクバーに下図の赤枠で示すアイコンが表示されます。



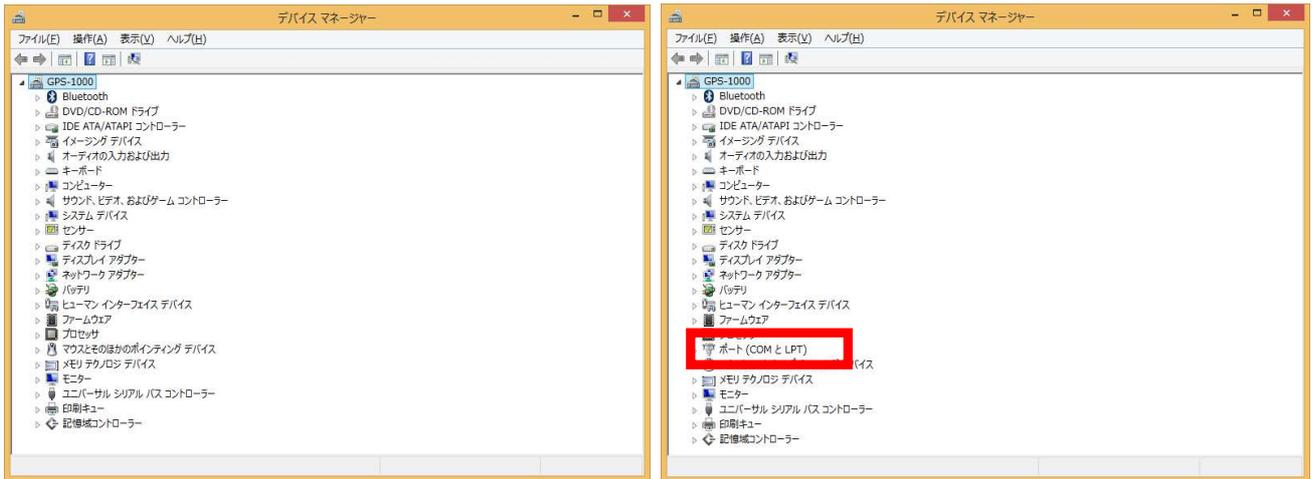
- ② このアイコンをクリックすると下図のような画面が表示されます。(Windowsのドライバ検索機能で自動的に適切なドライバが選択されインストールされている様子です)



- ③ インストールが終わると、上記画面は自動的に消えます。所要時間はネットワークの接続環境にもよりますが、数秒～数分です。
- ④ インストールが無事終了し、ケーブルが認識されているかを確認するため、デバイスマネージャーを起動します。
- ⑤ パソコン画面右下のスタートボタンを右クリックします。メニューの中からデバイスマネージャーを選択します。



⑥ 以下の通り、ケーブル挿す前には存在しなかった「ポート(COMとLPT)」が追加されています。



⑦ 「ポート(COMとLPT)」を展開すると「USB Serial Port(COM\*)」が追加されていることが確認できます。下図では、COM3となっていますが、COMの後の番号は、お使いのパソコンによって異なります。この「COM\*」は本ソフトの接続確認の際に使用しますので、どこかにメモを取っておきましょう。

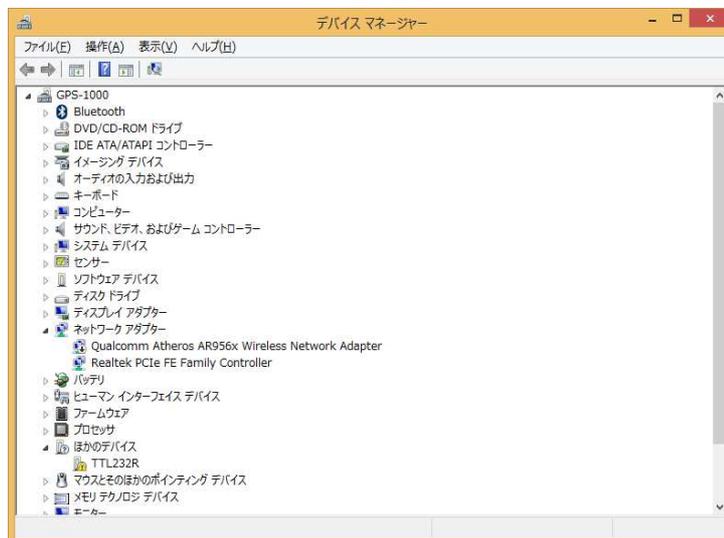


(2) お手持ちのパソコンがネットワークにつながっていない場合

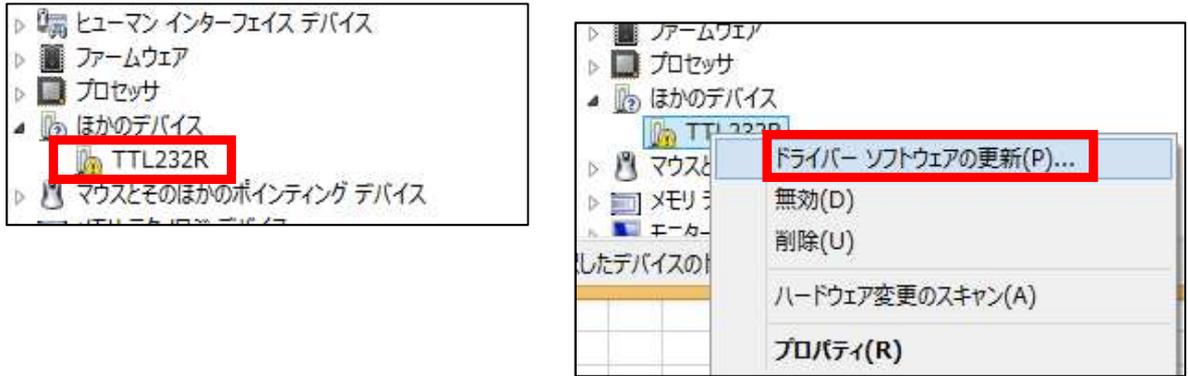
- ① 解凍した「セットアップディスク」ホルダーの場所を確認してください。
- ② 接続ケーブルをパソコンのUSBポートに接続してください。
- ③ パソコン画面右下のスタートボタンを右クリックします。メニューの中からデバイスマネージャーを選択します。



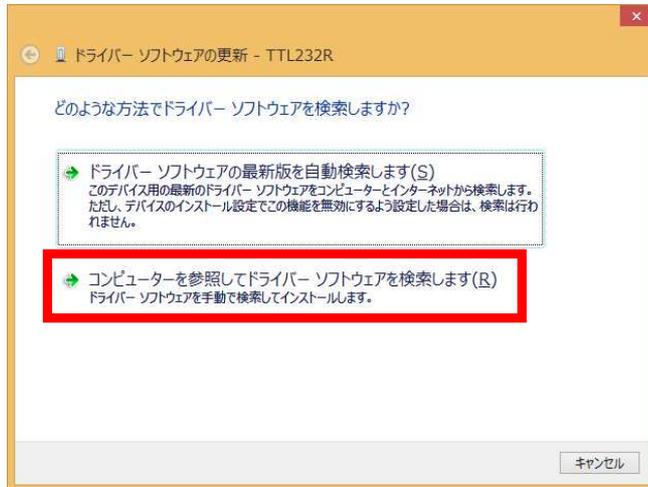
④ デバイスマネージャーの画面が起動します。



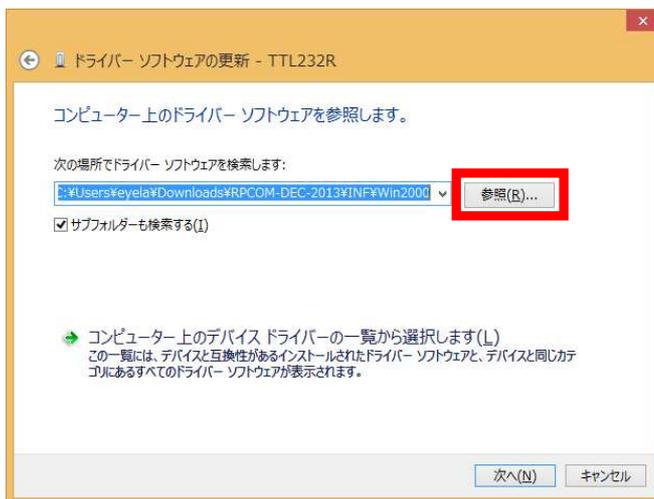
- ⑤ 画面下の方に不明なデバイスとして「TTL232R」が見えます。これを右クリックしてドライバソフトウェアの更新を選択します。



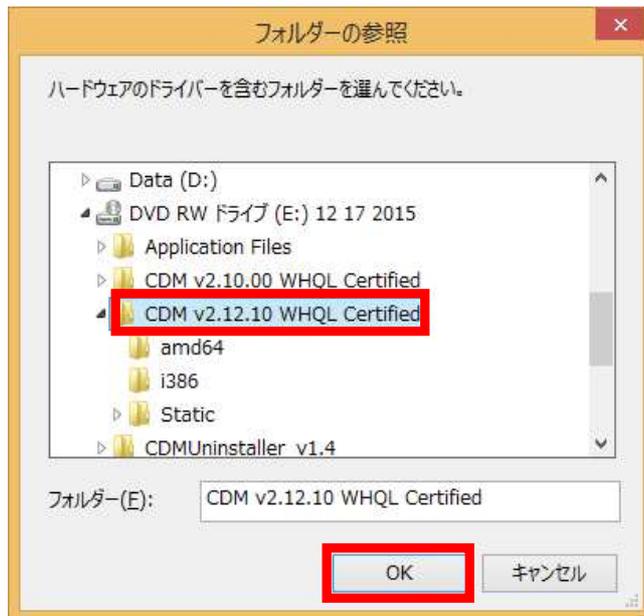
- ⑥ 以下画面が表示されますので、「コンピュータを参照してドライバソフトウェアを検索します」を選択してください。



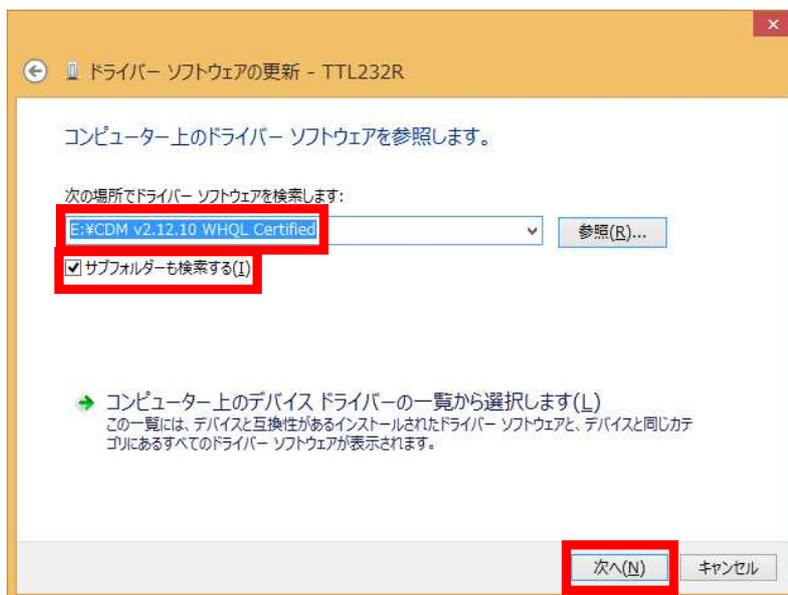
- ⑦ 参照ボタンをクリックします。



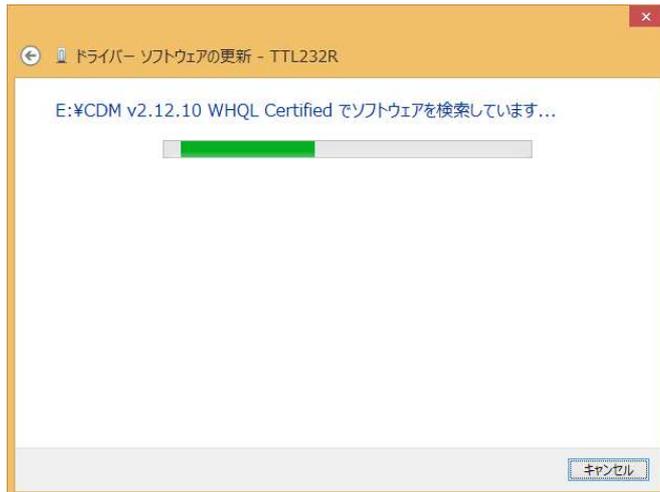
- ⑧ ①で確認した「セットアップディスク」ホルダーの「CDM-- v2.12.10 WHQL Certified」を選択してOKボタンをクリックします。



- ⑨ ⑧で選択したフォルダになっていることを確認し、次へをクリックします。  
(サブフォルダも検索するにチェックが入っていない場合は、チェックを入れてください)



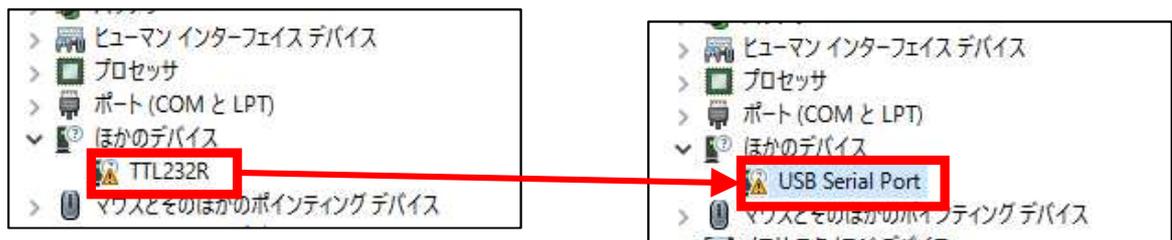
- ⑩ ドライバーのインストールが始まります。お使いのパソコンにもよりますが、インストールは数秒程度で完了します。



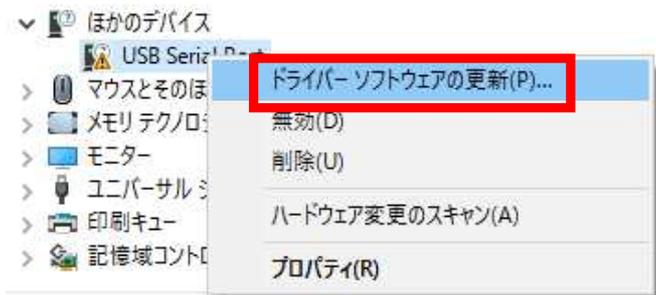
- ⑪ 以下の画面が表示されますので、閉じるをクリックしてください。仮想COMドライバのインストールは2回必要です。下図のように「USB Serial Converter」と表示される場合は、まだ途中ですので注意してください。



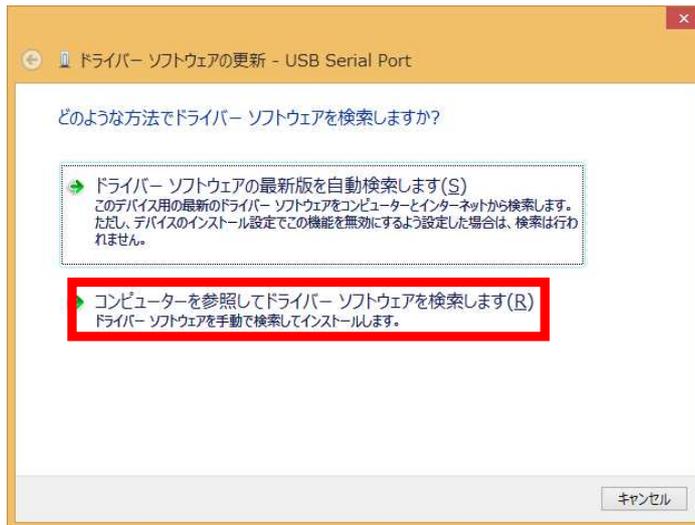
- ⑫ デバイスマネージャの画面に戻ります。表示名が「TTL232R」 --> 「USB Serial Port」に変わっていれば⑪までの作業は無事終了しています。変わっていない場合は、①からの作業を再度確認してください。



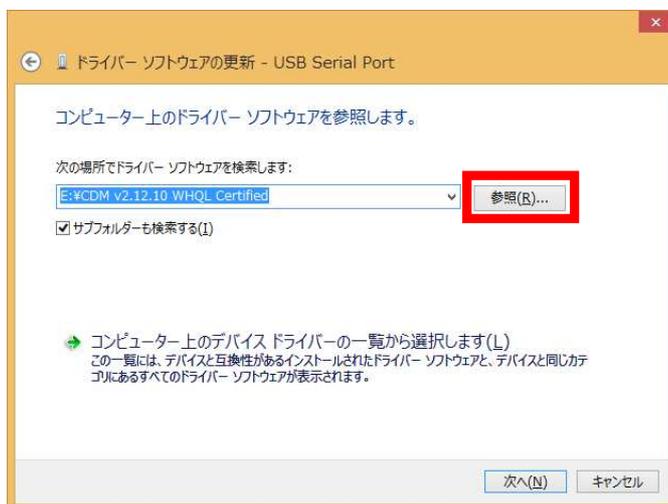
- ⑬ 不明なデバイスとして見える「USB Serial Port」を右クリックしてドライバソフトウェアの更新を選択します。



- ⑭ 以下画面が表示されますので、「コンピュータを参照してドライバソフトウェアを検索します」を選択してください。



- ⑮ 参照ボタンをクリックします。



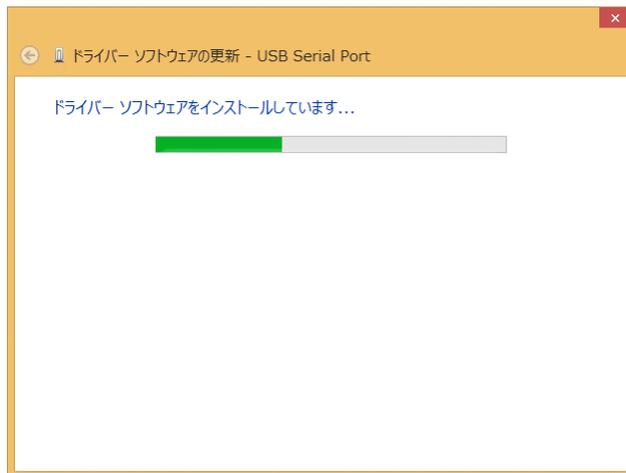
- ⑩ ①で確認した「セットアップディスク」ホルダーの「CDM-- v2.12.10 WHQL Certified」を選択してOKボタンをクリックします。



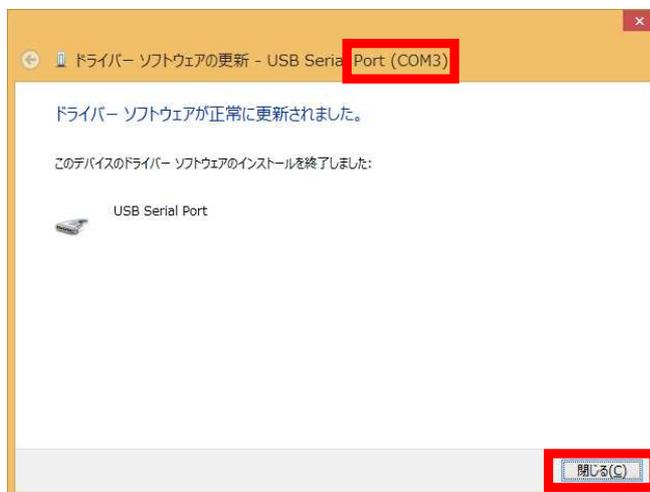
- ⑪ ⑩で選択したフォルダになっていることを確認し、次へをクリックします。  
(サブフォルダも検索するにチェックが入っていない場合は、チェックを入れてください)



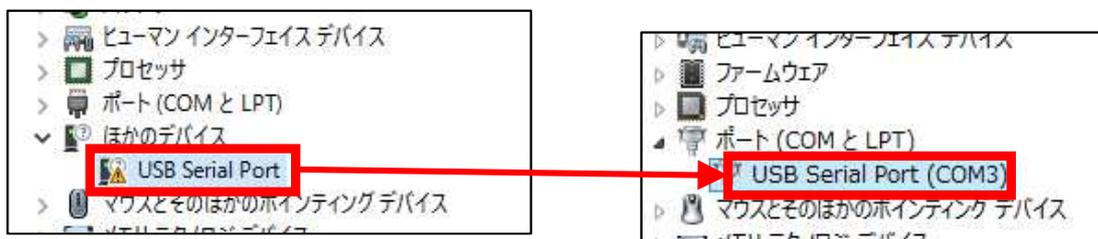
- ⑱ ドライバーのインストールが始まります。お使いのパソコンにもよりますが、インストールは数秒程度で完了します。



- ⑲ 以下の画面が表示されますので、閉じるをクリックしてください。



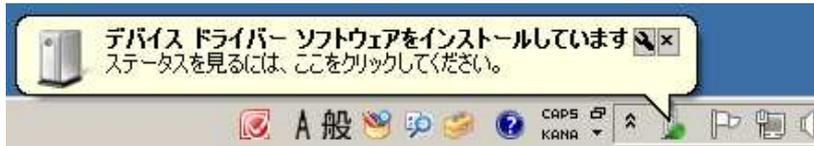
- ⑳ デバイスマネージャの画面に戻ります。「ポート(COMとLPT)」を展開します。先ほどまでほかのデバイスに表示されていた「USB Serial Port」が「USB Serial Port(COM\*)」に変わっていれば、仮想COMドライバのインストールは無事終了です。  
下図では、COM3となっていますが、COMの後の番号は、お使いのパソコンによって異なります。この「COM\*」は本ソフトの接続確認の際に使用しますので、どこかにメモを取っておきましょう。



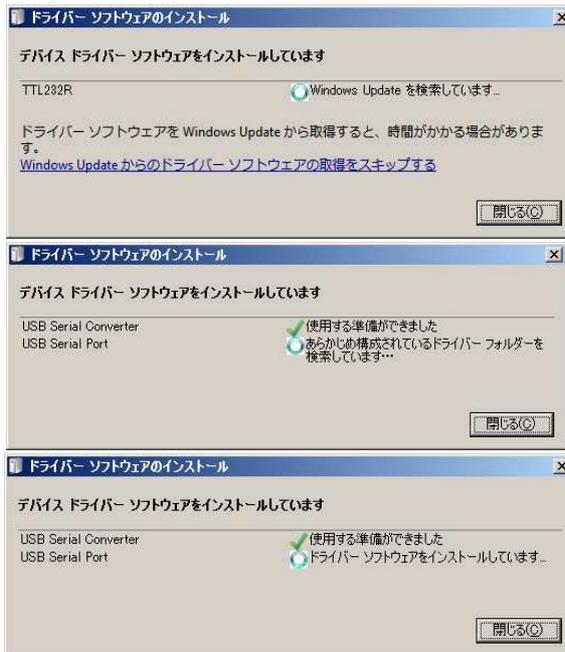
## 2-3 Windows7の場合

### (1) お手持ちのパソコンがネットワークにつながっている場合

- ① 接続ケーブルをパソコンのUSBポートに接続してください。  
接続直後に、タスクトレイに下図の表示がでます。



- ② このアイコンをクリックすると(Windowsのドライバ検索機能で自動的に適切なドライバが選択されインストールされている様子が確認できます。(アイコンはクリックしなくてもインストールは進みます)  
以下の赤枠内の左右いずれかの表示が確認されれば、仮想COMドライバのインストールは完了です。



- ③ インストールが無事終了し、ケーブルが認識されているかを確認するため、デバイスマネージャーを起動します。

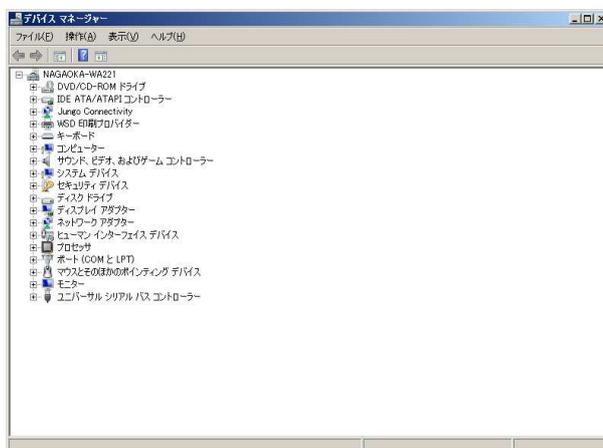
- ④ パソコン画面右下のスタートボタンから、コンピュータを右クリックし、メニューの中からプロパティを選択します。



- ⑤ 「システム」画面が起動します、画面右側の「デバイスマネージャー」をクリックして下さい。



- ⑥ 「デバイスマネージャー」の画面が起動します。

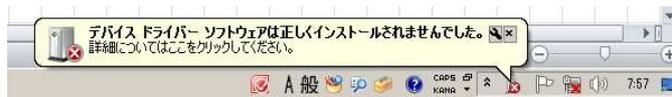


- ⑦ 画面下の方に、「ポート(COMとLPT)」という項目がありますので、これの「+」ボタンを押して展開させて下さい。この中にUSB Serial Port(COM\*)という表記の項目があれば、仮想COMドライバのインストールは無事終了です。
- 下図では、COM4となっていますが、COMの後の番号は、お使いのパソコンによって異なります。この「COM\*」は本ソフトの接続確認の際に使用しますので、どこかにメモを取っておきましょう。



(2) お手持ちのパソコンがネットワークにつながっていない場合

- ① 解凍した「セットアップディスク」ホルダーの場所を確認してください。
- ② 接続ケーブルをパソコンのUSBポートに接続してください。画面右下の以下の表示ができるかもしれませんが、無視して③に進んで下さい。



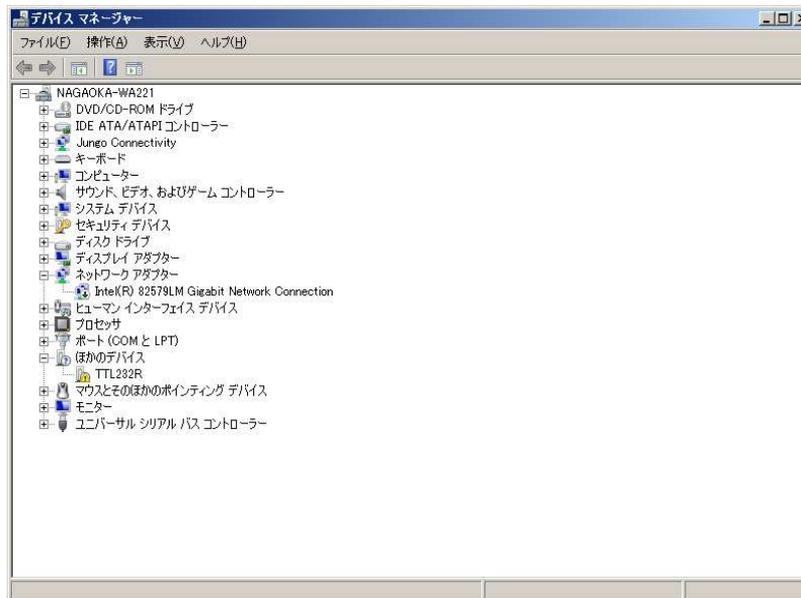
- ③ パソコン画面右下のスタートボタンから、コンピュータを右クリックし、メニューの中からプロパティを選択します。



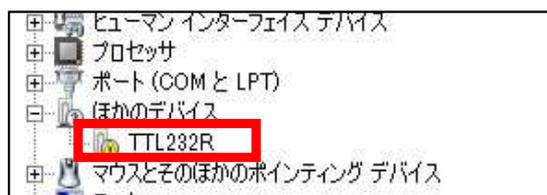
- ④ 「システム」画面が起動します、画面右側の「デバイスマネージャー」をクリックして下さい。



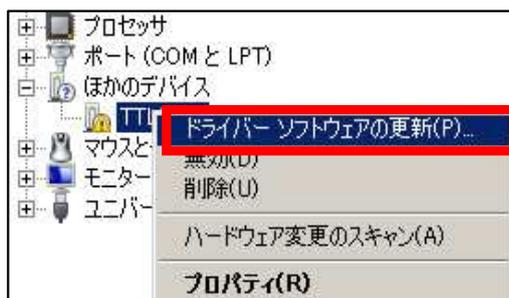
- ⑤ 「デバイスマネージャー」の画面が起動します。



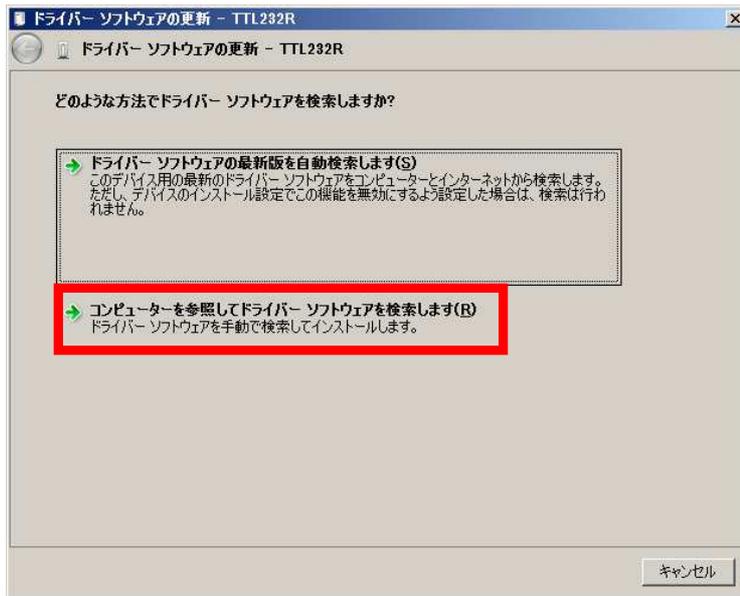
- ⑥ 画面の下の方に「ほかのデバイス」、「TTL232R」という不明なデバイスが追加されています。



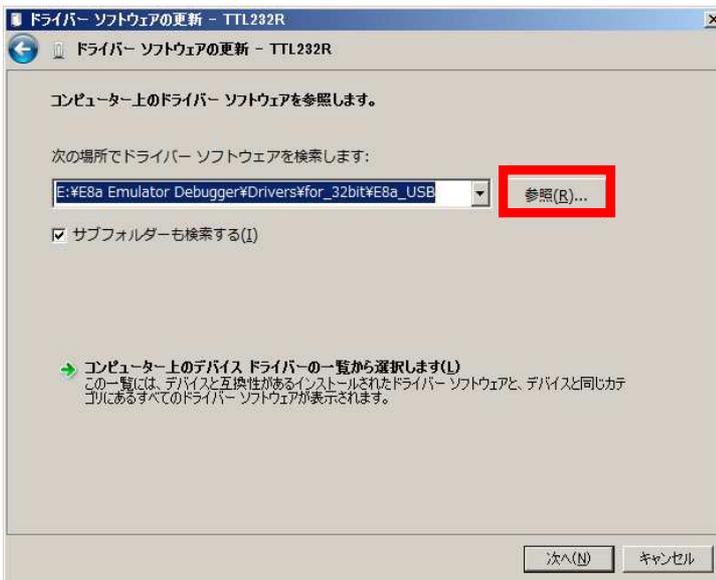
- ⑦ この不明なデバイスを右クリックし、メニューの中から「ドライバーソフトウェアの更新」を選択して下さい。



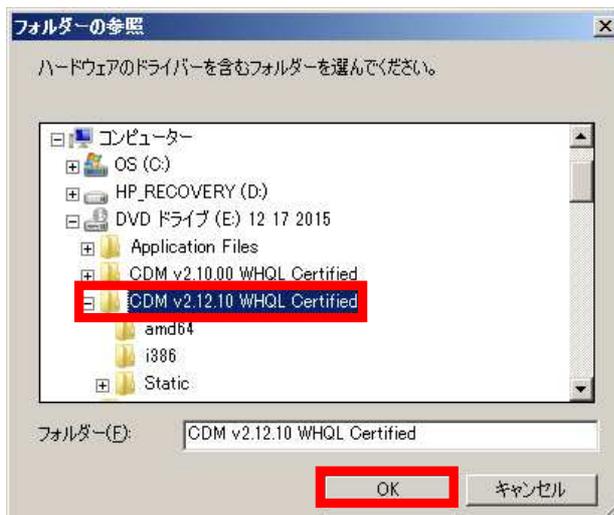
- ⑧ 「コンピュータを参照してドライバーソフトウェアを検索します」を選択して下さい。



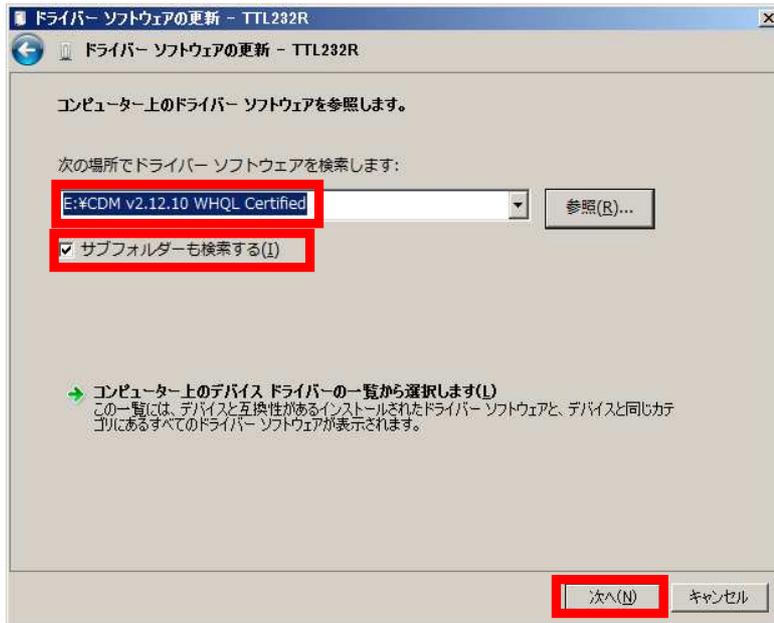
- ⑨ 参照ボタンをクリックします。



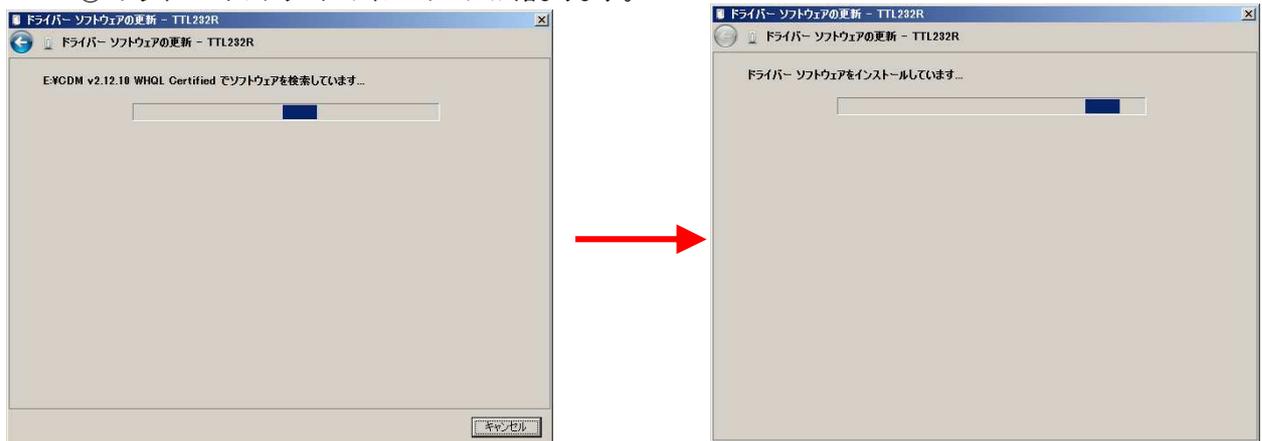
- ⑩ ①で確認した「セットアップディスク」ホルダーの「CDM-- v2.12.10 WHQL Certified」を選択してOKボタンをクリックします。



- ⑩ ⑩で選択したフォルダになっていることを確認し、次へをクリックします。  
(サブフォルダも検索するにチェックが入っていない場合は、チェックを入れてください)



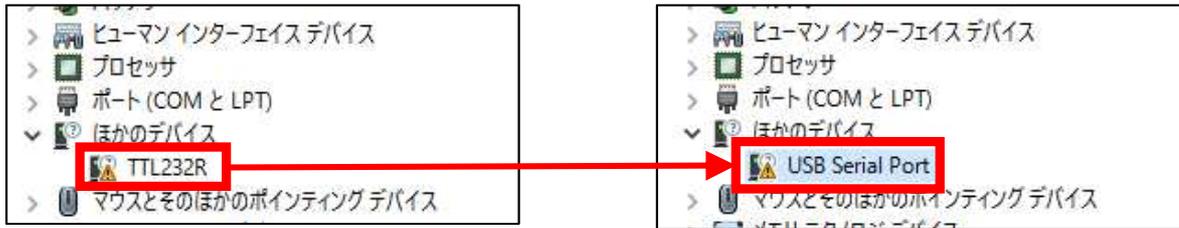
- ⑫ ドライバーソフトウェアのインストールが始まります。



- ⑬ 以下の画面が表示されますので、閉じるをクリックしてください。仮想COMドライバのインストールは2回必要です。  
下図のように「USB Serial Converter」と表示される場合は、まだ途中ですので注意してください。



- ⑭ デバイスマネージャの画面に戻ります。表示名が「TTL232R」 → 「USB Serial Port」に変わっていれば⑬までの作業は無事終了しています。変わっていない場合は、①からの作業を再度確認してください。



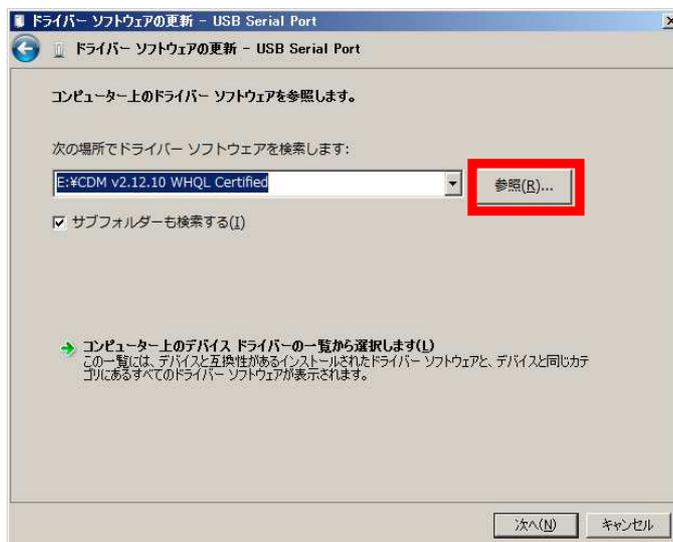
- ⑮ 不明なデバイスとして見える「USB Serial Port」を右クリックしてドライバソフトウェアの更新を選択します。



- ⑯ 「コンピュータを参照してドライバソフトウェアを検索します」を選択して下さい。



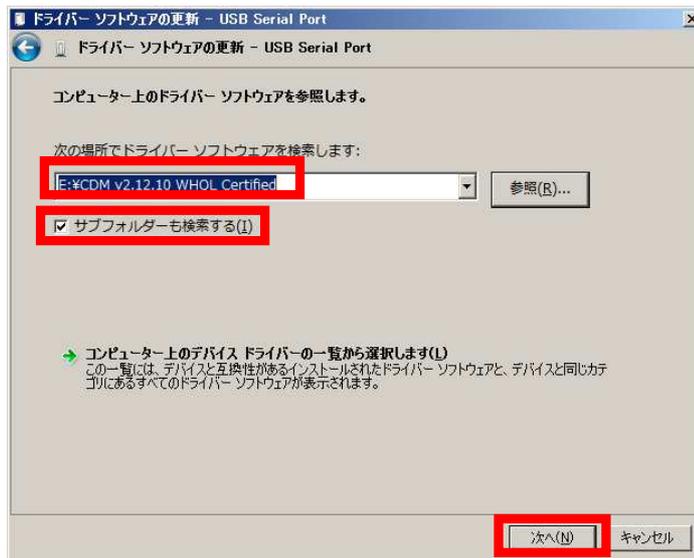
- ⑰ 参照ボタンをクリックします。



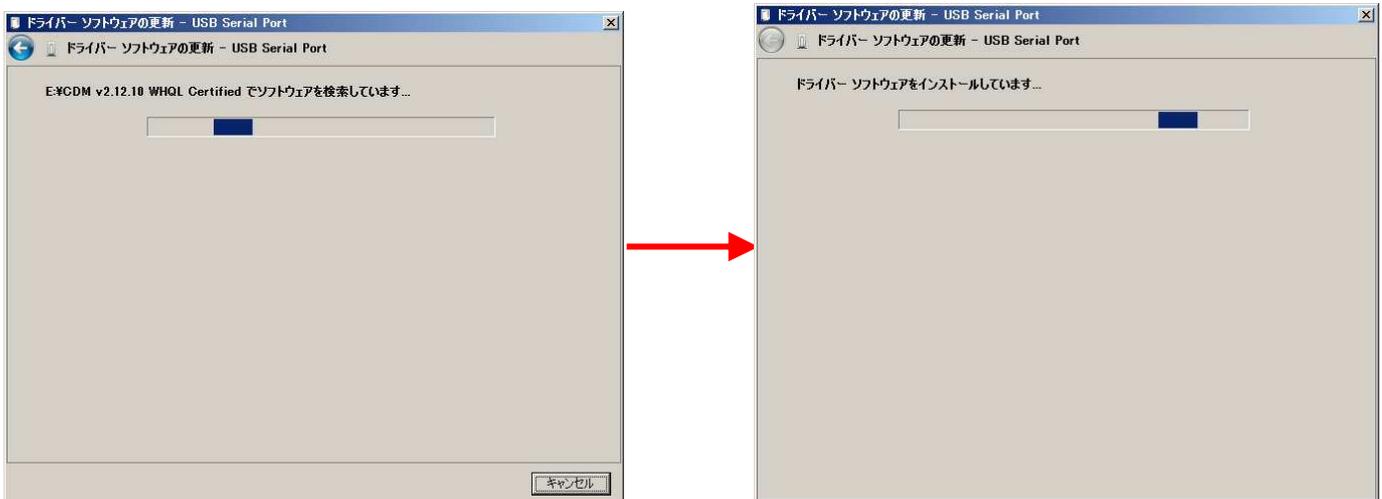
- ⑱ ①で確認した「セットアップディスク」ホルダーの「CDM-- v2.12.10 WHQL Certified」を選択してOKボタンをクリックします。



- ⑲ ⑱で選択したフォルダになっていることを確認し、次へをクリックします。  
(サブフォルダも検索するにチェックが入っていない場合は、チェックを入れてください)



- ⑳ ドライバーソフトウェアのインストールが始まります。



- ⑳ 以下の画面が表示されますので、閉じるをクリックしてください。



- ㉑ デバイスマネージャの画面に戻ります。「ポート(COMとLPT)」を展開します。先ほどまでほかのデバイスに表示されていた「USB Serial Port」が「USB Serial Port(COM\*)」に変わっていれば、仮想COMドライバのインストールは無事終了です。

下図では、COM4となっていますが、COMの後の番号は、お使いのパソコンによって異なります。

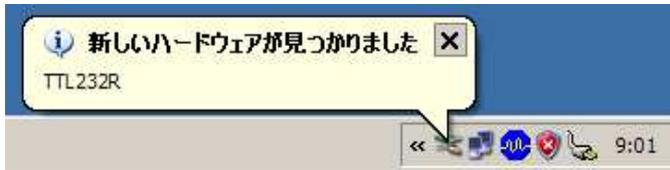
この「COM\*」は本ソフトの接続確認の際に使用しますので、どこかにメモを取っておきましょう。



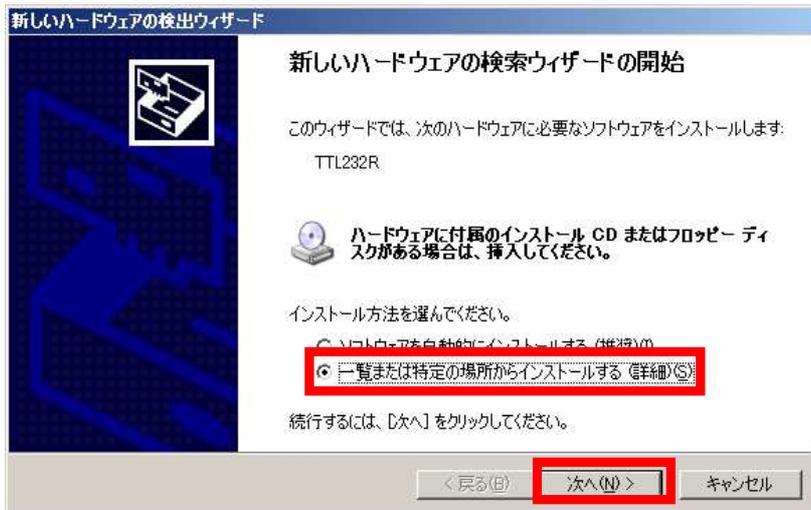
## 2-4 WindowsXPの場合

WindowsXP の場合、Windows7 以降と違い、ネットワーク経由で自動的に最適なドライバーソフトウェアをインストールする機能はありません。ダウンロードファイルを使ってのインストールのみとなります。

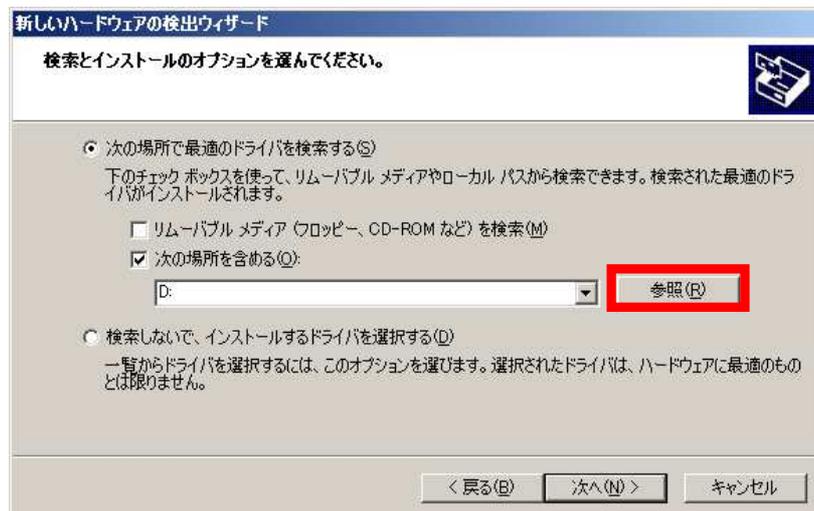
- ① 解凍した「セットアップディスク」ホルダーの場所を確認してください。
- ② 接続ケーブルをパソコンのUSBポートに接続してください。画面右下に以下の表示がでます。③の画面がでるまで少し待って下さい。(数秒～数十秒)



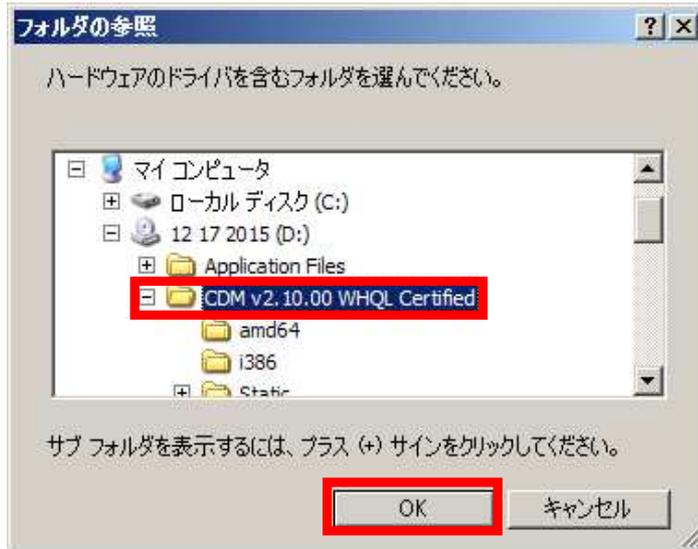
- ③ 「新しいハードウェアの検出ウィザード」が表示されますので、「一覧または特定の場所からインストールする」を選択して「次へ」をクリックして下さい。



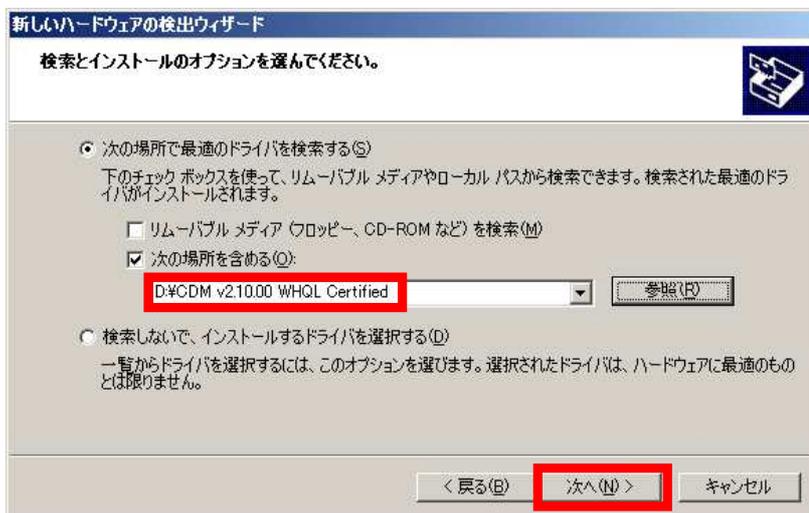
- ④ 「参照」をクリックして下さい。



- ⑤ ①で確認した「セットアップディスク」ホルダーの「CDM-- v2.10.10 WHQL Certified」を選択してOKボタンをクリックします。



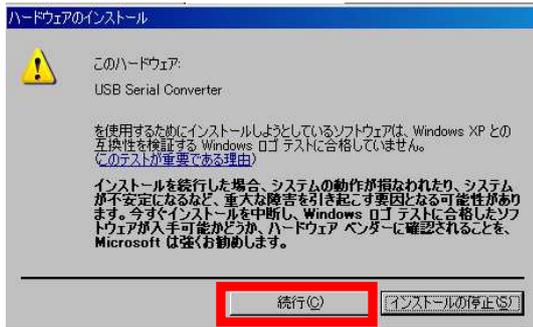
- ⑥ ⑤で選択したフォルダになっていることを確認し、次へをクリックします。



- ⑦ ドライバソフトウェアのインストールが始まります。



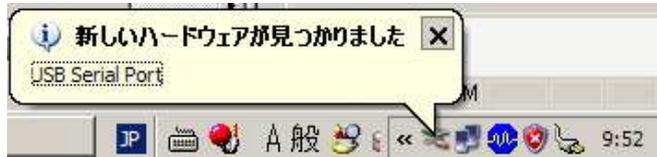
- ⑧ 途中警告画面がでますが、「続行」をクリックします。



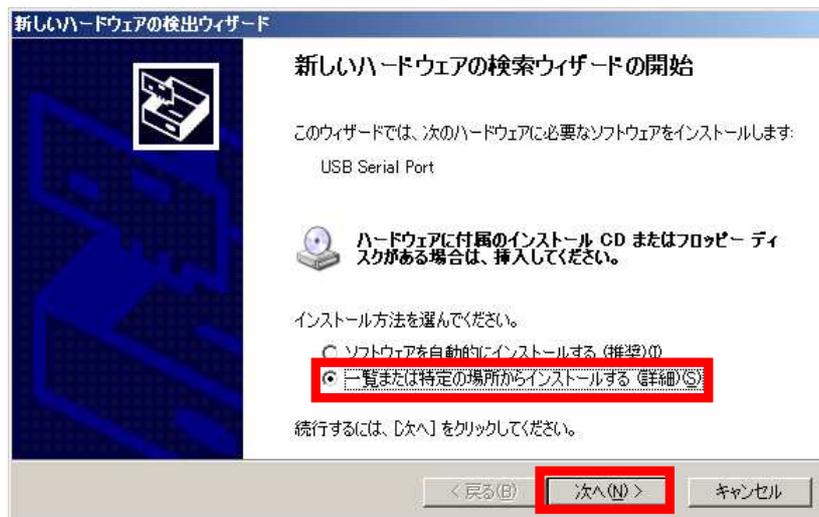
- ⑨ 以下の画面が表示されますので、「完了」をクリックしてください。仮想COMドライバのインストールは2回必要です。下図のように「USB Serial Converter」と表示される場合は、まだ途中ですので注意してください。



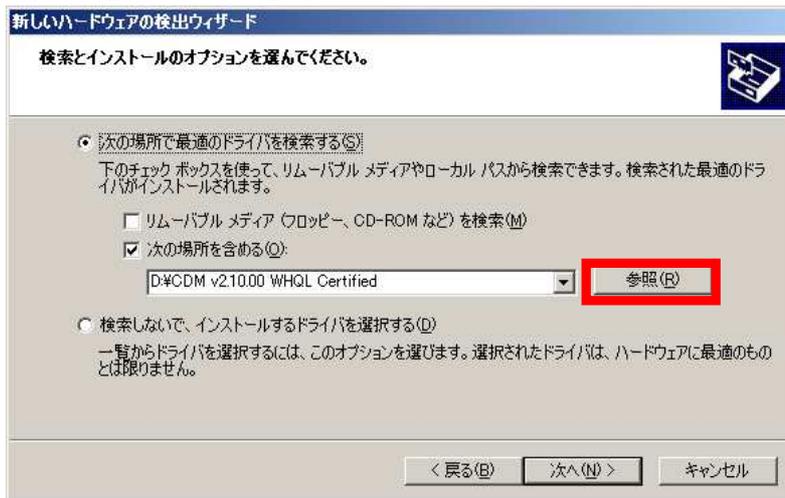
- ⑩ 数秒待つと画面右下に「新しいハードウェアが見つかりました USB Serial Port」と表示されます。⑪の「新しいハードウェアの検出ウィザード」が表示されるまで更に数秒お待ちください。



- ⑪ 「新しいハードウェアの検出ウィザード」が表示されますので、「一覧または特定の場所からインストールする」を選択して「次へ」をクリックして下さい。



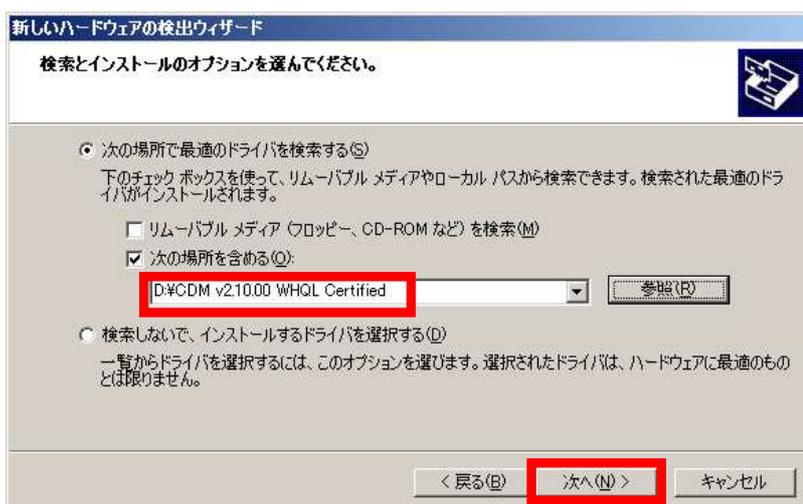
- ⑫ 「参照」をクリックして下さい。



- ⑬ ⑪で確認した「セットアップディスク」ホルダーの「CDM-- v2.10.10 WHQL Certified」を選択してOKボタンをクリックします。



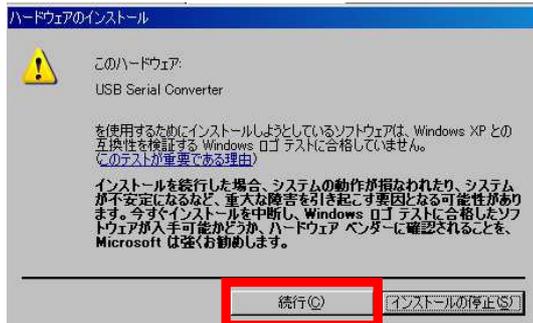
- ⑭ ⑬で選択したフォルダになっていることを確認し、次へをクリックします。



- ⑮ ドライバーソフトウェアのインストールが始まります。



- ⑯ 途中警告画面がでますが、「続行」をクリックします。



- ⑰ 以下の画面が表示されますので、「完了」をクリックしてください。

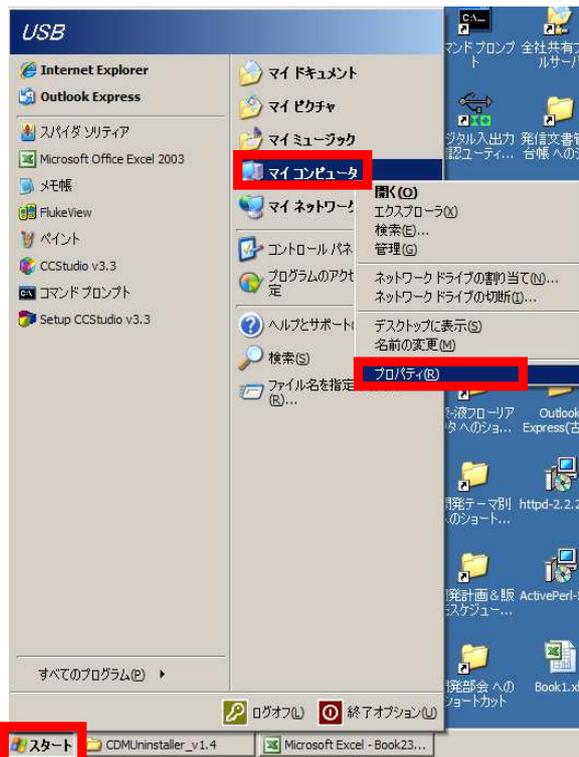


- ⑱ 画面の右下に「新しいハードウェアが見つかりました」「新しいハードウェアがインストールされ、使用準備ができました。」と表示されれば、インストールは完了です。



- ⑲ デバイスマネージャーを起動して、インストールの確認を行います。

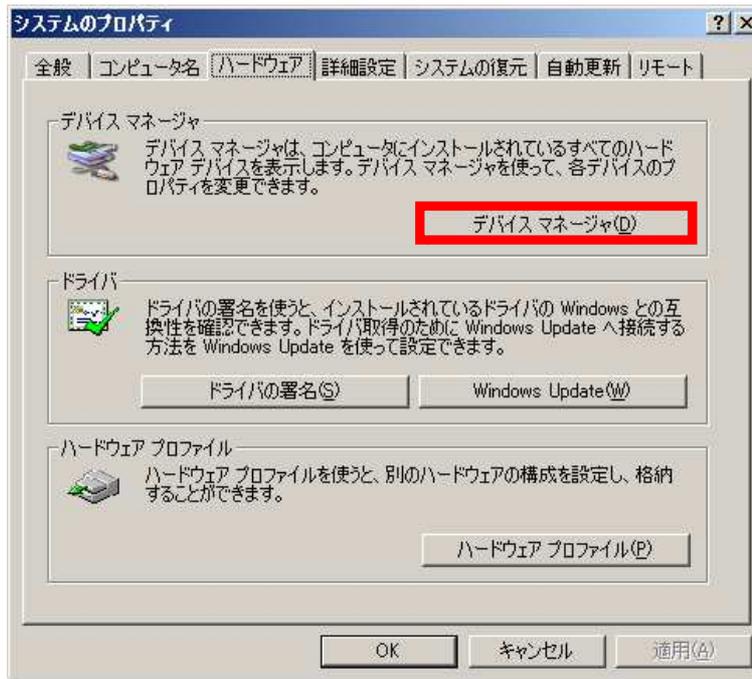
- ⑩ 「スタート」ボタンから「マイコンピュータ」を右クリックし、メニューから「プロパティ」を選択します。



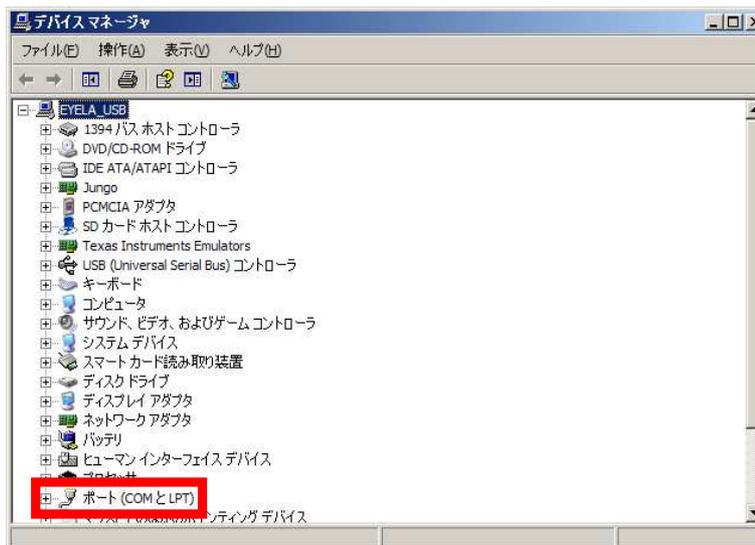
- ⑪ 「システムのプロパティ」が表示されますので、「ハードウェア」のタグを選択して下さい。



- ⑳ 「デバイスマネージャー」 をクリックして下さい。



- ㉑ 画面下の方に「ポート(COMとLPT)」の「+」ボタンをクリックして展開してください。



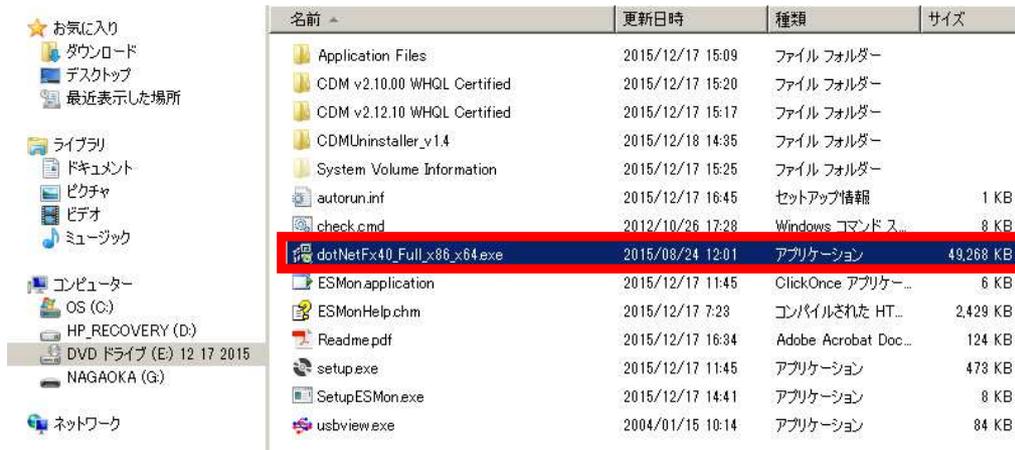
- ㉒ 下図のように「USB Serial Port (COM\*\*）」と表示されていれば、仮想COMドライバは正常にインストールされています。

下図では、COM11となっていますが、COMの後の番号は、お使いのパソコンによって異なります。この「COM\*」は本ソフトの接続確認の際に使用しますので、どこかにメモを取っておきましょう。

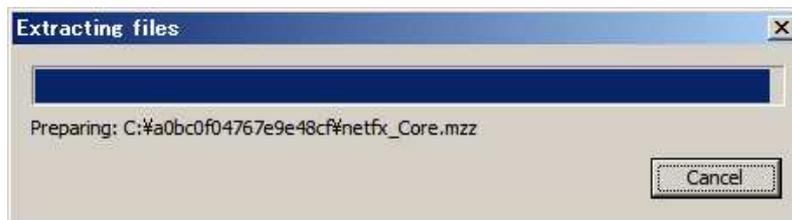


### 3. .NetFramework4.0 のインストール

- ① 「セットアップディスク」ホルダーのダウンロード先を確認してください。
- ② セットアップディスクホルダーの「dotNetFx40\_Full\_x86\_x64.exe」をダブルクリックして下さい。



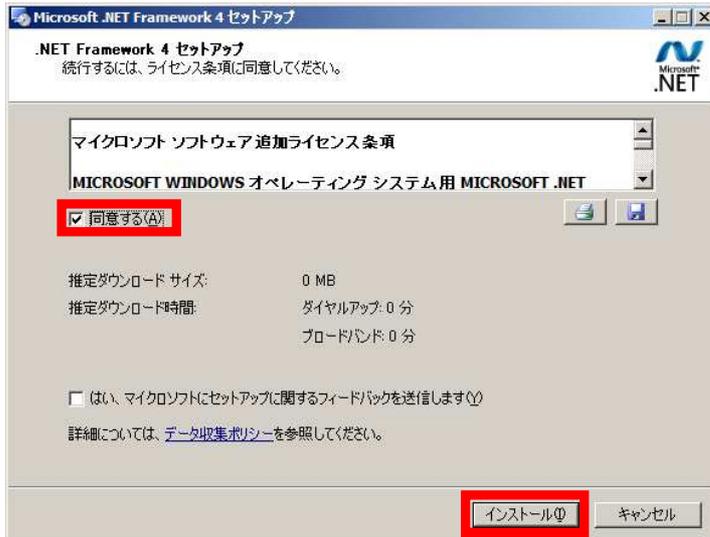
- ③ インストールファイルの展開が始まります。



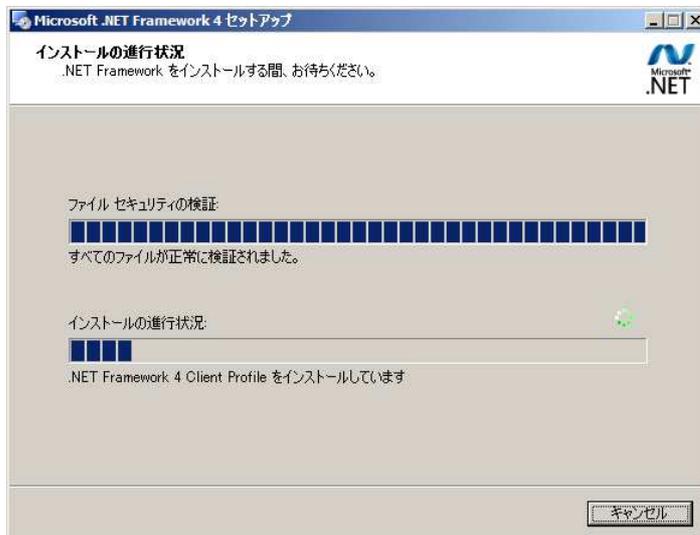
- ④ 以下のメッセージが表示される場合は、「.NET Framework4」またはそれ以降のバージョンが既にインストールされています。  
「.NET Framework」のインストールは終了し、引き続き「4. アプリケーションプログラムのインストール」を行って下さい。



- ⑤ ライセンスの確認画面が出ますので、「同意する」にチェックを入れて「インストール」をクリックして下さい。



- ⑥ インストールが始まります。



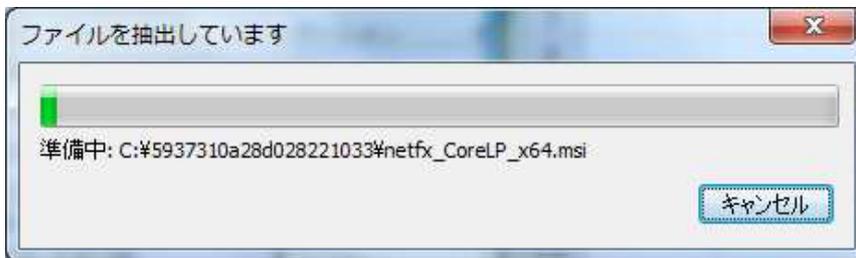
- ⑦ インストールは数分～長くても10分程度で終了します。  
以下の画面が表示されれば、終了です。「完了」を押して画面を閉じて下さい。



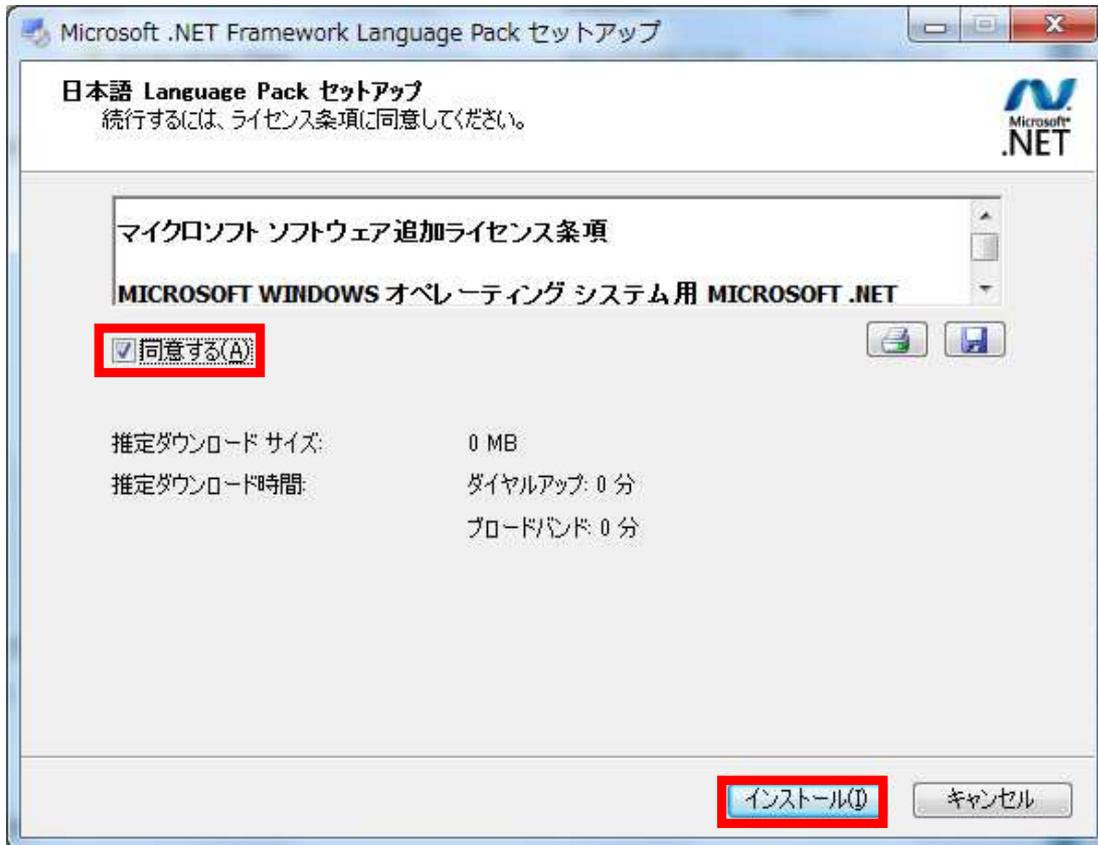
- ⑧ セットアップディスクホルダーの「dotNetFx40LP\_Full\_x86\_x64ja.exe」をダブルクリックして下さい。

名前	更新日時	種類	サイズ
Application Files	2017/11/01 9:06	ファイル フォル...	
CDM v2.10.00 WHQL Certified	2017/11/01 9:07	ファイル フォル...	
CDM v2.12.10 WHQL Certified	2017/11/01 9:07	ファイル フォル...	
CDMUninstaller_v1.4	2017/11/01 9:07	ファイル フォル...	
autorun.inf	2015/12/22 10:44	セットアップ情報	1 KB
check.cmd	2012/10/26 17:28	Windows コマン...	8 KB
DotNetCheck.exe	2015/12/22 9:36	アプリケーション	24 KB
dotNetFx40_Full_x86_x64.exe	2015/08/24 12:01	アプリケーション	49,268 KB
<b>dotNetFx40LP_Full_x86_x64ja.exe</b>	2017/11/01 11:31	アプリケーション	4,143 KB
EPMon.application	2016/09/27 18:02	Application Mani...	6 KB
EPMonHelp.chm	2016/09/09 11:18	コンパイルされ...	2,451 KB

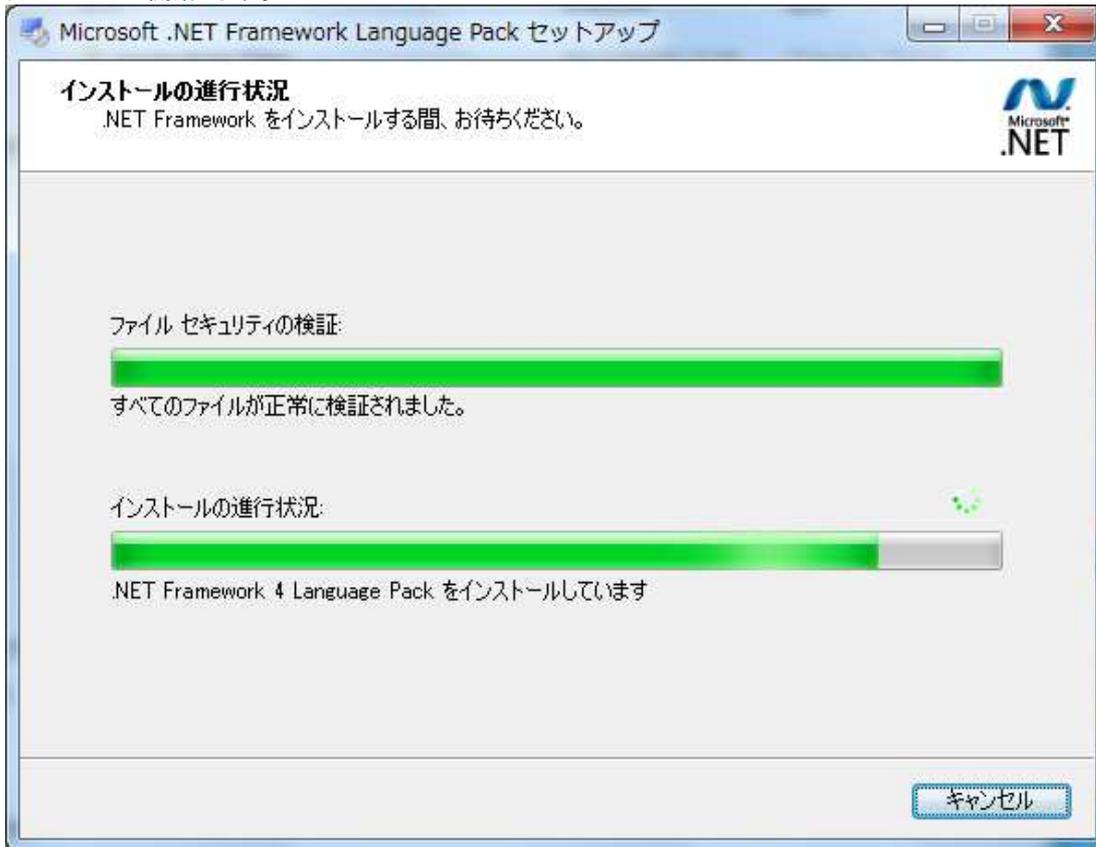
- ⑨ インストールファイルの展開が始まります。



- ⑩ ライセンスの確認画面が出ますので、「同意する」にチェックを入れて「インストール」をクリックして下さい。



- ⑪ インストールが開始します。

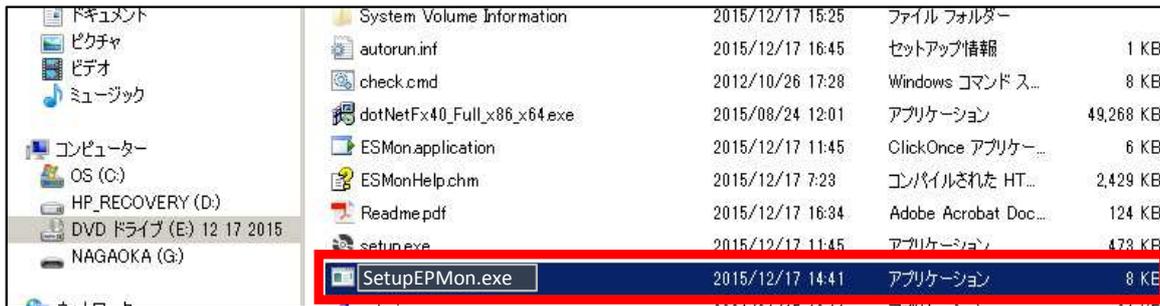


- ⑫ インストールは数分～長くても10分程度で終了します。  
以下の画面が表示されれば、終了です。「完了」を押して画面を閉じて下さい。

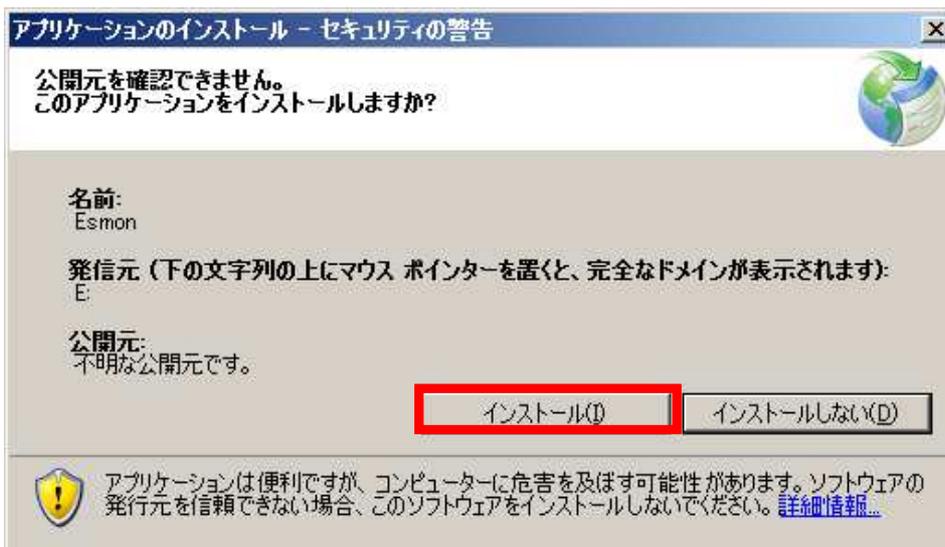


#### 4. アプリケーションプログラムのインストール

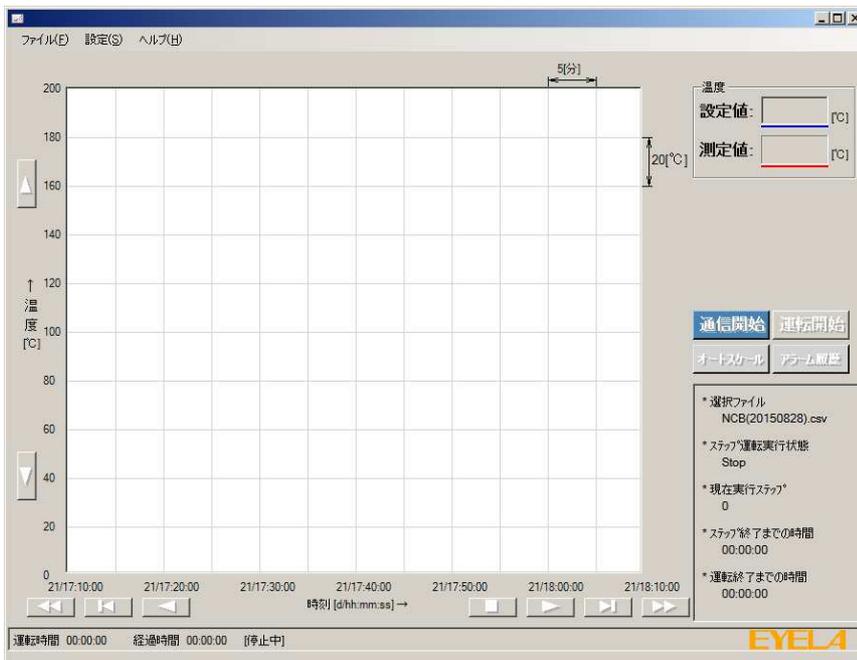
- ① 解凍した「セットアップディスク」ホルダーの場所を確認してください。
- ② 「セットアップディスク」ホルダーの「SetupEPMon.exe」をダブルクリックして下さい。



- ③ 以下の画面が表示されたら、インストールをクリックして下さい。



- ④ インストールが完了し、アプリが起動します。そのままお使い頂けます。



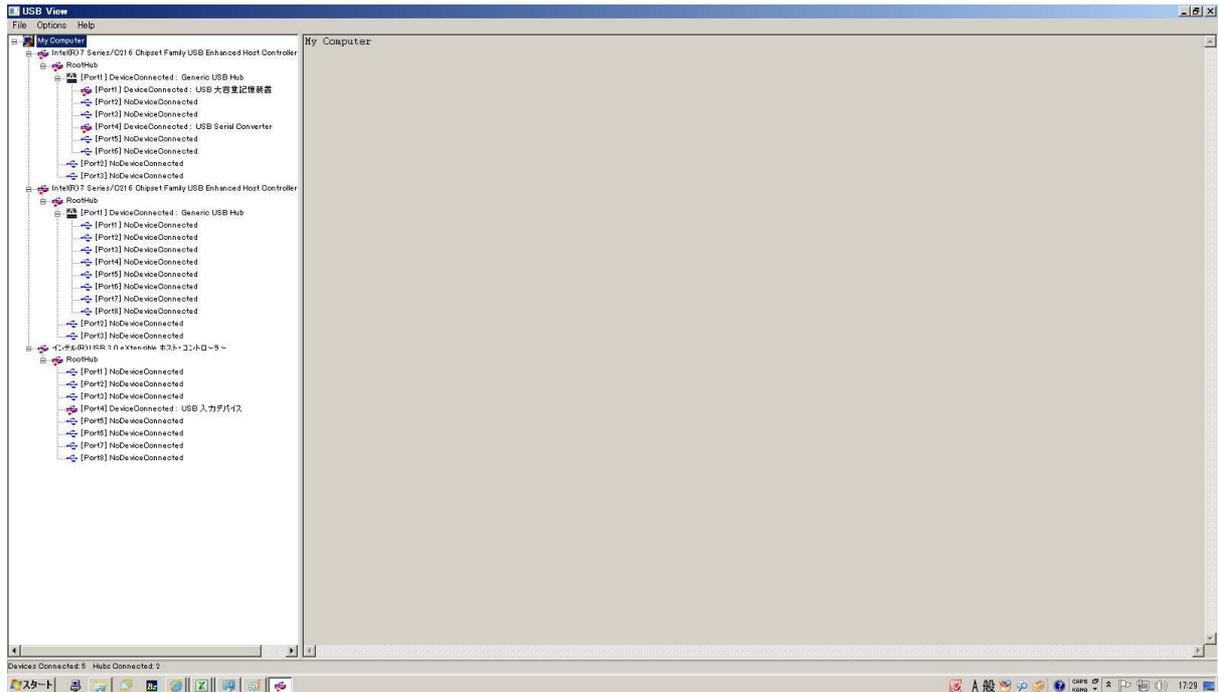
## 5. その他

### (1) 仮想COMドライバのアンインストール

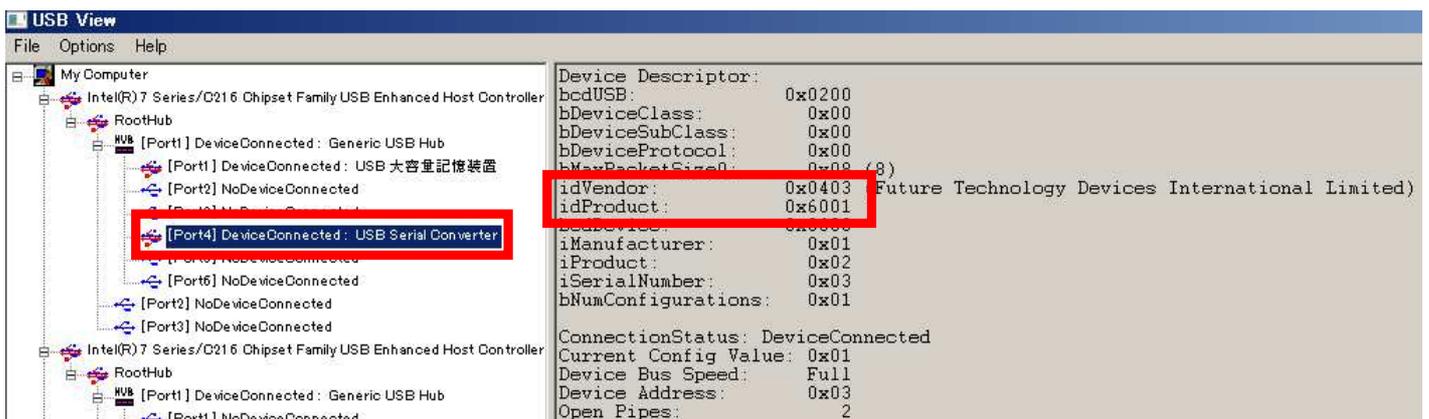
- ① 解凍した「セットアップディスク」ホルダーの場所を確認してください。
- ② 接続ケーブルをパソコンのUSBポートに接続してください。
- ③ セットアップディスクホルダーの「usbview.exe」をダブルクリックして実行してください。

ファイル名	作成日時	ファイルタイプ	サイズ
Application Files			
CDM v2.10.00 WHQL Certifie			
CDM v2.12.10 WHQL Certifie			
CDMUninstaller.v1.4			
setup.exe	2015/12/17 11:45	アプリケーション	473 KB
SetupESMon.exe	2015/12/17 14:41	アプリケーション	8 KB
usbview.exe	2004/01/15 10:14	アプリケーション	84 KB

- ④ 「USB View」というUSBポートに挿入されたデバイスの状態を見ることのできるソフトが起動します。



- ⑤ 仮想COMポートが正常にインストールされていれば、この中に、「Device Connected : USB Serial Converter」というデバイスが表示されますので、下図のように選択して下さい。



- ⑥ 選択すると、画面右側に“0x”から始まる6文字のベンダーIDとプロダクトIDが表示されます。上記の例では

\* idVender : 0x0403  
\* idProduct : 0x6001

と表示されていますが、これは接続するケーブルに個別に割り当て数字です。この後行うアンインストール作業に必要になりますので、どこかにメモしておいてください。

- ⑦ 「USB View」の“X”を押してプログラムを終了させます。

- ⑧ セットアップディスクホルダー内の「CDMUninstaller\_v1.4」を展開して下さい。



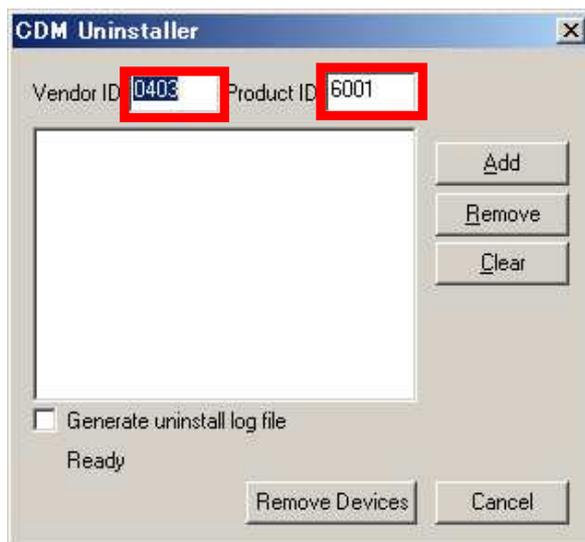
- ⑨ 展開したフォルダ内の「CDMuninstallerGUI.exe」をダブルクリックして起動して下さい。

CDMUninstaller.exe	2010/07/27 9:12	アプリケーション	563 KB
CDMuninstallerGUI.exe	2010/07/26 16:03	アプリケーション	644 KB
log_17-12-2015.txt	2015/12/18 8:19	テキスト ドキュメント	2 KB
log_18-12-2015.txt	2015/12/18 13:15	テキスト ドキュメント	3 KB

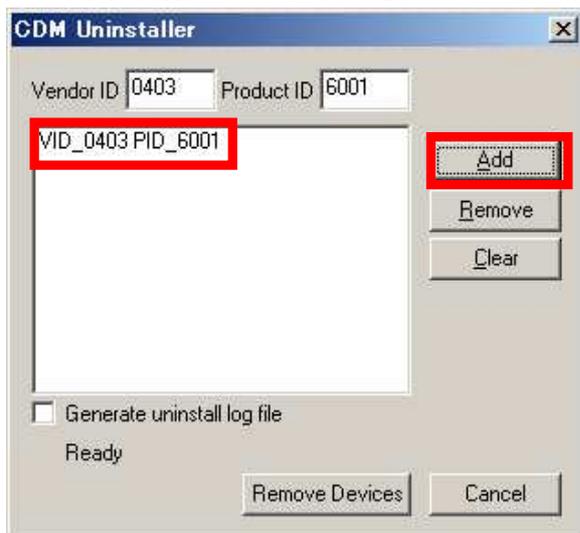
(Windows7以降のパソコンでは、管理者権限での実行が必要になりますので、右クリックして「管理者として実行」を選択して下さい)



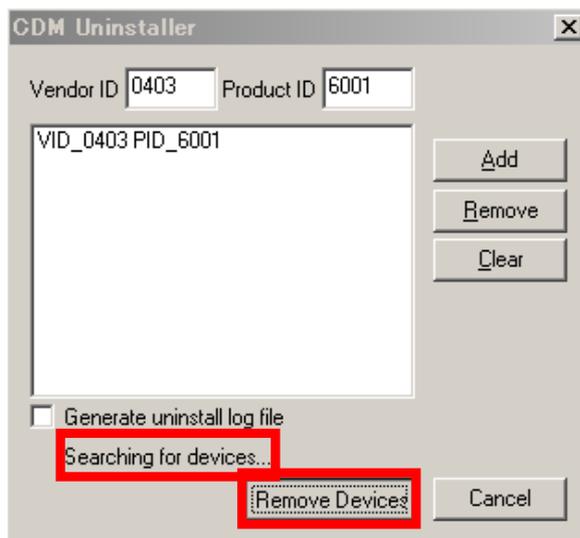
- ⑩ 展開したフォルダ内の「CDMuninstallerGUI.exe」をダブルクリックして起動して下さい。  
仮想COMドライバが正常にインストールされていれば、下図の「Vender ID」「Product ID」の部分に⑥でメモした数字(下図の例では“0403”と“6001”)が表示されます。  
この数字が表示されない場合は、仮想COMドライバがインストールされていないか、インストールに失敗していますのでアンインストール作業はここで中止して下さい。



- ⑪ メモした数字と、一致する場合は、「Add」 ボタンを押してデバイス(接続ケーブル)を追加してください。



- ⑫ 「Remove Devices」 ボタンをクリックして下さい。(Searching for devices... という表示が表れます)



- ⑬ 数秒すると削除成功(Remove Successful) の表示が表れます。 以上でアンインストールは成功です。



- ⑭ 「Cancel」 ボタン 又は「X」 ボタンでプログラムを終了させて下さい。

## (2) アプリケーションプログラムのアンインストール

- ① “スタート” → “コントロールパネル” の順にクリックし、“コントロールパネル” を起動してください。
- ② 一覧の中から「プログラムと機能」を選択します。

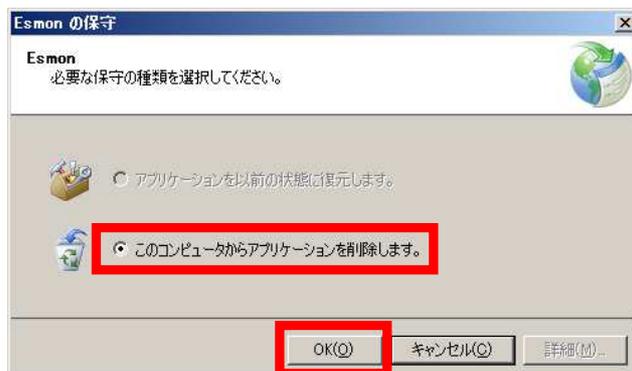


- ③ 一覧の中から「EPMon」を右クリックし、「アンインストールと変更」を選択します。

名前	発行元	イ...	サイズ	バージョン
EPMon	東京理化器械株式会社	2015/12/...		1.0.3.5
Adobe Flash Player 20 ActiveX	Adobe Systems Incorporated	2015/12/...	17.5 MB	20.0.0.228
Java 8 Update 66	Oracle Corporation	2015/12/...	21.0 MB	8.0.660.18
Microsoft Silverlight	Microsoft Corporation	2015/12/...	147 MB	5.1.4.1105.0
Adobe Acrobat Reader DC - Japanese	Adobe Systems Incorporated	2015/11/...	206 MB	15.009.20079
High-performance Embedded Workshop	ルネサスエレクトロニクス株式会社	2015/11/...		4.08.00.011

名前	発行元	イ...	サイズ	バージョン
EPMon	東京理化器械株式会社	2015/12/...		1.0.3.5
Adobe Flash Player 20 ActiveX	Adobe Systems Incorporated	2015/12/...	17.5 MB	20.0.0.228
Java 8 Update 66	Oracle Corporation	2015/12/...	21.0 MB	8.0.660.18
Microsoft Silverlight	Microsoft Corporation	2015/12/...	147 MB	5.1.4.1105.0
Adobe Acrobat Reader DC - Japanese	Adobe Systems Incorporated	2015/11/...	206 MB	15.009.20079

- ④ 「このコンピュータからアプリケーションを削除します。」を選択して「OK」を押します。

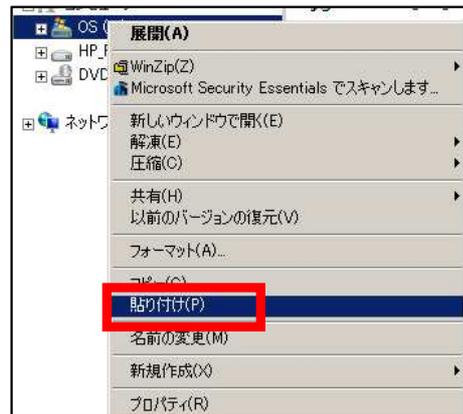
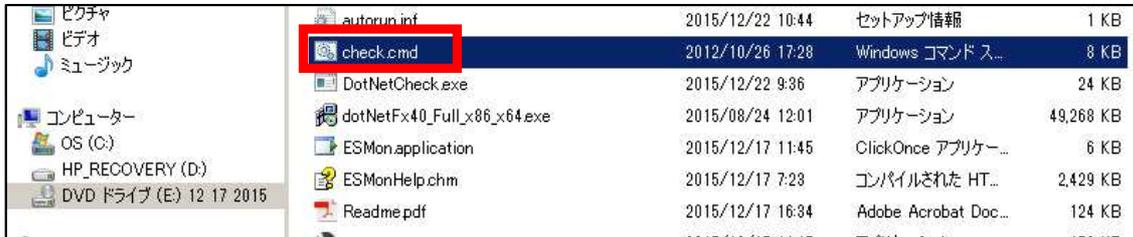


- ⑤ 「プログラムと機能」に戻ると、「EPMon」が削除されています。

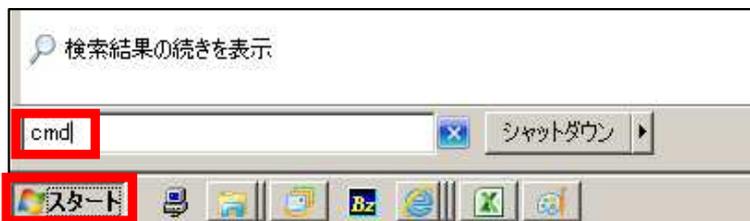
### (3) インストールされている “.NetFramework” の調べ方

インストールされている.NET Framework を調べるには、「セットアップディスク」ホルダーの“check.cmd” をコマンドプロンプトにて実行することにより確認できます。

- ① 「セットアップディスク」ホルダーのダウンロード先を確認してください。
- ② 「セットアップディスク」ホルダーの“check.cmd” をコマンドプロンプトから実行させやすいように、Cドライブの直下にコピーしま



- ③ “スタート” から“プログラムとファイルの検索”の欄に“cmd”と入力し、“Enter”キーを押します。



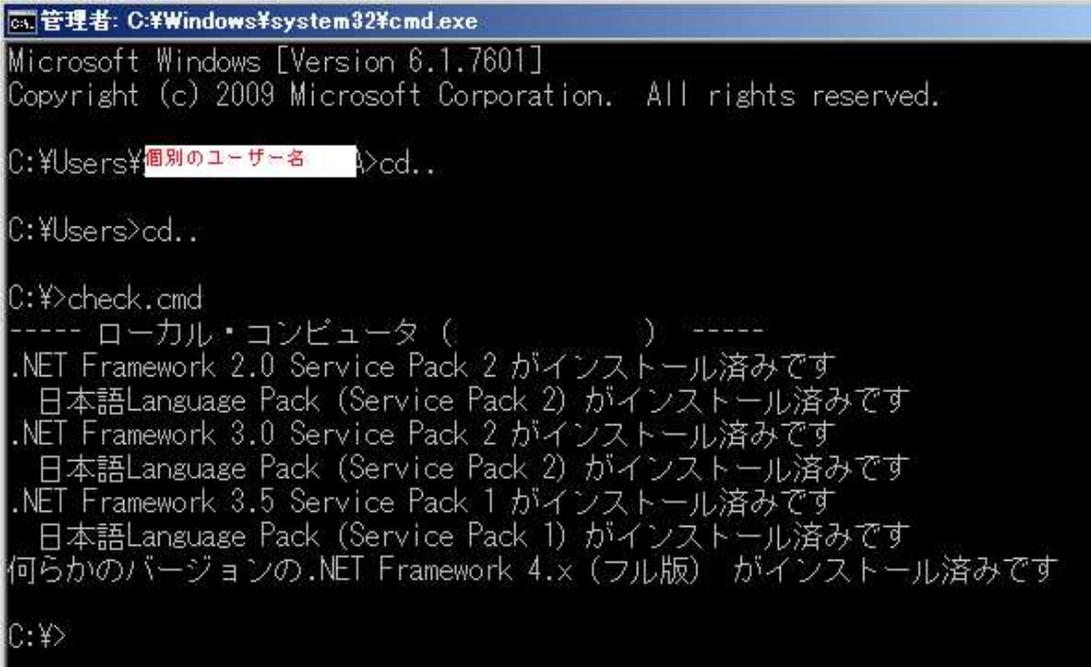
- ④ コマンドプロンプトが起動します。「個別のユーザー名」の部分はお使いのパソコンによって変わります。



- ⑤ “>”の後に“cd..”と入力し、カレントディレクトリをCドライブ直下にもっていきます。



- ⑥ “check.cmd” と入力し、“Enter” キーを押します。  
下図のように、インストールされている .NET Framework のバージョンが表示されます。下図の例では .NET2.0 / .NET3.0 / .NET3.5 / .NET4 がインストールされていることが表示されています。



```
管理者: C:\Windows\system32\cmd.exe
Microsoft Windows [Version 6.1.7601]
Copyright (c) 2009 Microsoft Corporation. All rights reserved.

C:\Users\個別のユーザー名>cd..

C:\Users>cd..

C:\>check.cmd
----- ローカル・コンピュータ ( ) -----
.NET Framework 2.0 Service Pack 2 がインストール済みです
  日本語Language Pack (Service Pack 2) がインストール済みです
.NET Framework 3.0 Service Pack 2 がインストール済みです
  日本語Language Pack (Service Pack 2) がインストール済みです
.NET Framework 3.5 Service Pack 1 がインストール済みです
  日本語Language Pack (Service Pack 1) がインストール済みです
何らかのバージョンの .NET Framework 4.x (フル版) がインストール済みです

C:\>
```

